

關西大學泊園文庫藏書書目

文庫目録PDFファイル作成

平成二十七年（二〇二五）十一月十八日

目次

自筆稿本

甲部

.....

三

丙部

.....

四五

自筆稿本

【備考】 表紙の「泊園文庫」ラベルに「書目 辨非物 冊数一」とあり 句点 欄外書き入れ多し 奥書あり 題簽「辨非物」の帙に収む

東袞文稿 十一冊二帙 藤澤東袞著 藤澤東袞筆

LH2*甲*3*

【葉数】 一冊目四十六葉 二冊目五十葉（墨付二十三葉）

三冊目四十三葉（墨付四十一葉） 四冊目四十七葉

五冊目四十八葉 六冊目四十五葉 七冊目五十葉（墨付

二十六葉） 八冊目四十三葉（墨付四十二葉） 九冊

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 一冊目 表紙左下に「卷四」の書き付け、表紙の

「泊園文庫」ラベルに「庚 冊数八ノ四」二冊目 表紙

に左下に「卷五」の書き付け三冊目 表紙左に「手録

卷六」の書き付け、表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚

書目 東袞先生手録 冊数八ノ六」とあり四冊目 表紙

左下に「卷八」の書き付け、表紙の「泊園文庫」ラベル

に「庚 書目 東袞先生手録 冊数八ノ八」とあり五冊

目 表紙左下に「卷九」の書き付け、第二葉冒頭に「泊

園文稿」とあり六冊目 表紙左下に「卷十一」の書き付

け、表紙の「泊園文庫」ラベルに「庚 冊数

甲部

LH2*甲*207*4

易纂 二冊一帙 藤澤東袞著 藤澤東袞筆

LH2*甲*1-1*

【葉数】 一冊目三十四葉 二冊目四十葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き題簽「東袞先生手澤 易纂 一（一一）」

【備考】 表紙の「泊園文庫」ラベルに「甲 書目易纂 冊

数二、一（二、一）」とあり 句点 欄外貼り付け、書

き入れ多し 題簽「東袞先生易纂」の帙に収む

辨非物 一冊一帙 藤澤東袞著 藤澤東袞筆

LH2*甲*9*

【葉数】 九十七葉（墨付九十六葉）

【外題】 内題「辨非物」

【内題】 書き付け外題「辨非物」

LH2*甲*5*

LH2*甲*4*

LH2*甲*6*

LH2*甲*14-1*

LH2*甲*7*

LH2*甲*8*

LH2*甲*9*

LH2*甲*10*

LH2*甲*11*

LH2*甲*12*

LH2*甲*13*

LH2*甲*15*

泊園詩稿

一冊一帙 藤澤東衮著 藤澤東衮・南岳筆

- 【葉数】 四十八葉（墨付四十二葉）
- 【外題】 内題「泊園詩稿」
- 【内題】 書き題簽「泊園詩稿」
- 【備考】 朱墨書き入れ 題簽「泊園詩稿」の帙に収む

泊園文稿

三冊一帙 藤澤東衮著 抄写者未詳

- 【葉数】 一冊目七十四葉（墨付七十三葉） 二冊目八十二葉（墨付七十二葉） 三冊目六十八葉（墨付六十四葉）
- 【外題】 内題「泊園詩稿」
- 【内題】 書き付け外題「泊園文稿 卷一（卷二）（卷三）」
- 【備考】 精写本 朱点 朱墨書き入れ 題簽「泊園文稿」の帙に収む

東衮日記

一冊一帙 藤澤東衮著 藤澤東衮筆

LH2*甲*16*

- 【葉数】 四十八葉（墨付十二葉）
- 【外題】 内題なし
- 【内題】 外題なし
- 【備考】 横小本 文政七年一月及び二月、同八年三月の記録 句点 墨筆による書き入れあり 題簽「東衮日記」の帙に収む

東衮先生稿本

一冊 藤澤東衮著 藤澤東衮筆

LH2*甲*17*

- 【葉数】 二十葉
- 【外題】 内題なし
- 【内題】 書き付け外題「東衮先生稿本」
- 【備考】 朱熹「讀余隱之尊孟辨」を論ず 朱点 朱墨書き入れ 題簽「東衮先生稿本」の帙に収む

大阪北邸朝宿館棟碑文

一冊 藤澤東衮著 藤澤東

衮筆

LH2*甲*18*

- 【葉数】 三葉
- 【外題】 内題「大阪北邸朝宿館棟碑文」
- 【内題】 書き付け外題「大阪北邸朝宿館棟碑文」

【備考】 朱点 精写本 末尾に「嘉永三年庚戌夏五月上浣 恩俸生 藤澤甫謹撰」とあり 朱点 墨筆書き入れ 題簽「東衮先生稿本」の帙に収む

東衮詩存 一冊一帙 藤澤東衮著 藤澤南岳筆

LH2*甲*19*

【葉数】 六十九葉

【外題】 内題「東衮詩存」

【内題】 外題なし

【備考】 精写本 朱点 朱墨書き入れ 第一葉裏に朱書きのある貼り付けあり 附箋多し 題簽「東衮詩存」の帙に収む

泊園文稿 八冊一帙 藤澤東衮著 抄写者未詳

LH2*甲*20-1*

【葉数】 一冊目四十二葉(墨付四十葉) 二冊目三十七葉

三冊目五十八葉 四冊目三十六葉 五冊目三十七葉

六冊目四十六葉 七冊目四十六葉 八冊目五十二葉

【外題】 内題「泊園文稿」

【内題】 書き題簽「泊園文稿 金(石)(絲)(竹)(匏)(土)(革)(木)」

【備考】 精写本 明治十七年四月刊『東衮先生文集』の浄書稿本 六冊目第八葉裏と第九葉表の間に挟み物あり、「物夫子真蹟記」と題する草稿 句点 書き入れ 題簽「泊園文稿」の帙に収む

七香齋文叢 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*21*

【葉数】 七十九葉(墨付七十四葉)

【外題】 内題「七香齋文叢」

【内題】 書き題簽「七香齋文叢 序」

【備考】 精写本 朱点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋文叢」の帙に収む

七香齋文叢 三冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*22-1*

【葉数】 一冊目四十九葉(墨付四十七葉) 二冊目六十葉

(墨付五十八葉) 三冊目六十四葉(墨付六十三葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋文叢 一(一)(二)(三)」

【備考】 精写本 句点 返点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋文叢」の帙に収む

七香齋文雋 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄坡筆力

LH2*甲*23*

【葉数】 五十七葉(墨付五十五葉)

【外題】 内題「七香齋文雋」

【内題】 書き付け外題「七香齋文雋 完」

【備考】 精写本 大正三年六月刊『七香齋文雋』の浄書稿本であるう 精写本 朱点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋文雋」の帙に収む

七香齋秘笈 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄鶴筆力

LH2*甲*24-1*

【葉数】 一冊目五十一葉 二冊目四十四葉

【外題】 内題「七香齋餘筆」(一冊目)、「七香齋秘笈」(二冊目)

【内題】 書き付け外題「七香齋秘笈 一(一)」

【備考】 精写本 一冊目「七香齋餘筆」には「文字談」「論戰新詠」「探玉藥事」を収む 二冊目「七香齋秘笈」には「遊履餘痕」「探奇小録」を収む 朱点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋秘笈」の帙に収む

南岳先生撰文集墓碣銘集 一冊一帙 藤澤南岳著 抄写

者未詳

LH2*甲*25*

【葉数】 八十一葉（墨付四十三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 二十七家の墓碑文を収む 精写本 句点 朱墨書

き入れ 題簽「南岳撰文集墓碣銘」の帙に収む

七襄録

一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*26-1*

【葉数】 一冊目二十四葉（墨付十九葉） 二冊目二十八葉

（墨付二十葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七襄録」

【備考】 二冊目表紙外題下に「地誌」とあり 様々な覚書

を集めたもの 題簽「七襄録」の帙に収む

起草

五冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*27-1*

【葉数】 一冊目三十八葉（墨付三十七葉） 二冊目三十葉

（墨付二十葉） 三冊目十七葉（墨付二葉） 四冊目三

十二葉（墨付二十四葉） 五冊目十七葉（墨付八葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「起草」

【備考】 草稿・覚書集 一冊目表紙に「戊申」「七月」と小字

書き付けあり 四冊目の外題「七輯起草」を朱にて「九々幾草」と訂正す 五冊目の外題「九九幾起草」一冊目の第十六葉裏と第十七葉表の間に挟み物あり、「殊壽不貳」と題する追悼文 五冊目の第三葉裏と第四葉表の間に明治四十年二月刊『遊履餘痕』の小片の正誤表「遊履餘痕正誤」を挟む 題簽「起草」の帙に収む

起草

二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*28-1*

【葉数】 一冊目三十八葉（墨付三十六葉） 二冊目七十九

葉（墨付六十九葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「起草」

【備考】 横小本 一冊目の表紙に「大正乙卯四月」の書き

付け 題簽「起草」の帙に収む

壽客叢録

一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆力

LH2*甲*29*

【葉数】 四十二葉

【外題】 内題「壽客叢録」

【内題】 外題なし

【備考】 扉に「晩香」、その裏に「利武」と書き付けあり

精写本 句点 返点 朱墨書き入れ 大正四年十二月刊

『壽客叢録』の浄書稿本であるう 題簽「壽客叢録」の帙

に収む

醉世九劑

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*30*

【葉数】 五十葉

【外題】 内題「醉世九劑」

【内題】 書き付け外題「醉世九劑」

【備考】 和文 精写本 朱点 朱墨書き入れ 大正四年四

月刊『醉世九劑』の稿本 題簽「醉世九劑・發揮九範」の
帙に収む

醉世九劑 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2*甲*31*

【葉数】 四十二葉（墨付四十葉）

【外題】 内題「醉世九劑」

【内題】 書き付け外題「醉世九劑」

【備考】 和文 精写本 朱点 朱墨書き入れ 大正四年四

月刊『醉世九劑』の浄書稿本であろう 題簽「醉世九劑・
發揮九範」の帙に収む

發揮九範 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*32*

【葉数】 二十一葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「發揮九範」

【備考】 大正八年四月刊『發揮九範』の草稿 題簽「醉世

九劑・發揮九範」の帙に収む

發揮九範 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳等筆

LH2*甲*33*

【葉数】 二十四葉

【外題】 内題「發揮九範」

【内題】 書き付け外題「發揮九範」

【備考】 『發揮九範』の浄書稿本 精写本 朱点 朱墨書

き入れ 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

真珠九疇 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*34*

【葉数】 二十一葉

【外題】 内題「真珠九疇」

【内題】 書き付け外題「真珠九疇」

【備考】 大正七年四月刊『真珠九疇』の浄書稿本であろう

精写本 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

大東宝訓 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*36*

【葉数】 十葉

【外題】 内題「大東宝訓」

【内題】 書き付け外題「大東宝訓」

【備考】 明治四十四年十月刊『七輯』所載「大東宝訓」の

原稿 精写本 墨筆による書き入れあり 題簽「醉世九
劑・發揮九範」の帙に収む

一以貫之 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*37*

【葉数】 十葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「一以貫之」

【備考】 経書から「一」の字のある章句を蒐録したもの

精写本 朱点 朱墨書き入れ 題簽「醉世九劑・發揮九
範」の帙に収む

韻語抄 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*38*

【葉数】 七葉

【外題】 内題「韻語抄」

【内題】 書き付け外題「韻語抄」

【備考】 精写本 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

徳目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*39*

【葉数】 十三葉(墨付九葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「徳目」

【備考】 道徳に関する語を列挙した簡単な覚書 朱墨書き
入れ 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

古言摘録

一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*40-1*

【葉数】 一冊目六十五葉(墨付五十二葉) 二冊目六十一

葉(墨付四十四葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「古言摘録 一(一)」

【備考】 一冊目表紙の外題右に「名言九韻」(朱筆)、「七香

齋餘筆之一」(墨筆)とあり 中国の古言を五十音順に抄録し、意味(和文)と出典を双行注で示す 墨筆による

書き入れ 題簽「名言九韻」の帙に収む

本朝學原浪華鈔

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*41*

【葉数】 十一葉

【外題】 内題「本朝學原浪華鈔」

【内題】 書き付け外題「本朝學原浪華鈔」

【備考】 精写本 書き入れあり 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

坐右書篋

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*42*

【葉数】 十二葉(墨付二葉)

【外題】 内題「坐右書篋」

【内題】 書き付け外題「坐右書篋」

【備考】 座右の書函に収めていた書目十一点を記した覚書
題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

七香齋叢書

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*44*

【葉数】 五十葉(墨付十葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋叢書 下」

【備考】 「蘭馨録」「家譜稿」「七香譜」「濯錦餘」よりなる
題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

稗教叢書目

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*45*

【葉数】 二十八葉(墨付八葉)

【外題】 内題「稗教叢書目」

【内題】 書き付け外題「徵古逸事」

【備考】 泊園書院における教育関連の書目 末尾に「以上
既在泊園文庫」という 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

藝圃能事

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*46*

【葉数】 二十五葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「藝圃能事」

【備考】 「名言抄」その他からなる 朱墨書き入れ 題簽
「七香齋雜筆」の帙に収む

史閣雜録

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*48*

【葉数】 十八葉（墨付十六葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「史閣雜録」

【備考】 讃岐関連資料に関する覚書 朱墨による訂正あり

題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

新撰月令 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*43*

【葉数】 二十二葉

【外題】 内題「新撰月令」

【内題】 書き付け外題「新撰月令」

【備考】 一月から十二月までの各月につき「名数」「気候」

「公典」「旧儀」等の表現を摘録したもの 精写本 墨筆

による書き入れ 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

地名考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*49*

【葉数】 十九葉（墨付十四葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「地名考」

【備考】 日本の地名について記した覚書 題簽「七香齋雜

筆」の帙に収む

古紙考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*50*

【葉数】 二十七葉（墨付二葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「古紙考」

【備考】 『古事類苑』からの抜粹 題簽「古紙考 古墳考

外」の帙に収む

古墳考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*51*

【葉数】 十九葉（墨付一葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「古墳考」

【備考】 四つの古墳に関する覚書 題簽「古紙考 古墳考

外」の帙に収む

霜葉考 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*52*

【葉数】 五十三葉（墨付二十三葉）

【外題】 内題「霜葉考」

【内題】 書き付け外題「霜葉考」

【備考】 「霜葉考」、曆表、「韻雅分配」よりなる覚書 紅

葉の図あり 題簽「霜葉考」の帙に収む

楓譜 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*53*

【葉数】 二十八葉（墨付二葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「楓譜」

【備考】 紅葉の図あり 題簽「古紙考 古墳考 外」の帙

に収む

詠史詩纂 一冊 藤澤南岳評閲 藤澤黄鵠纂註 藤澤南

岳筆

LH2*甲*54*

【葉数】 七葉

【外題】 内題「詠史詩纂」

【内題】 書き付け外題「詠史詩纂」

【備考】 邦人の漢詩について評閲と纂註を加える 墨筆による書き入れ多し 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

詠史詩纂 一冊 藤澤南岳評閲 藤澤黄鵠纂註 藤澤南岳筆

岳筆

【葉数】 二十葉

【外題】 内題「詠史詩纂」

【内題】 書き付け外題「詠史詩纂」

【備考】 精写本 朱点 墨筆による書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2*甲*55*

詠史詩選 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

【葉数】 十五葉（墨付八葉）

【外題】 内題「詠史詩選」

【内題】 書き付け外題「詠史詩選」

【備考】 精写本 欄外書入れ多し 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2*甲*56-1*

詠古詩選初稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

【葉数】 六十四葉（墨付二十八葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「詠古詩選初稿」

【備考】 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2*甲*56-2*

詠史詩纂原稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

【葉数】 十五葉

【外題】 内題なし

LH2*甲*56-3*

【内題】 書き付け外題「詠史詩纂原稿 貳」

【備考】 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

詠史選古体初稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

【葉数】 二十七葉（墨付二十六葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「詠史選古体初稿 参」

【備考】 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2*甲*56-4*

詠史詩纂目録 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

【葉数】 十三葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「詠史詩纂目録」

【備考】 朱墨書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2*甲*56-5*

日本詠史詩選目録 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

【葉数】 二十一葉（墨付十八葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「日本詠史詩選目録 一」

【備考】 欄外書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2*甲*56-6*

日本詠史詩 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

【葉数】 十四葉（墨付十三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「日本詠史詩」

【備考】 目録のみ 朱墨書き入れ 題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2*甲*56-7*

詠史詩選草稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*56-8*

【葉数】 十六葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「詠史詩選草稿」(仮表紙 詩史は詠

史の誤り)

【備考】 句点 返点 墨筆による書き入れ 題簽「詠史詩

纂」の帙に収む

詠史詩選草稿 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳 藤澤南

岳書き入れ

LH2*甲*56-9*

【葉数】 四十葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「詠史詩選草稿」

【備考】 一部に句点・送り仮名・返点 朱墨書き入れ多し

題簽「詠史詩纂」の帙に収む

日本袖史 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*57*

【葉数】 六葉

【外題】 内題「日本袖史」

【内題】 書き付け外題「袖史 皇系表」

【備考】 朱墨書き入れ 題簽「通史論文・日本袖史皇室表」

の帙に収む

通史論文 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2*甲*58*

【葉数】 九十七葉(墨付三十葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「通史論文」

【備考】 精写本 欄外書き入れあり 題簽「通史論文・日本袖史皇室表」の帙に収む

通史外編 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆力

LH2*甲*59-1*

【葉数】 一冊目四十葉 二冊目(五十八葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋餘筆」

【備考】 外題のみ南岳筆 一冊目に「稱呼譯抄」「通史外

編卷之一」「通史外編卷之二」、二冊目に「通史外編卷之

三」を収む 精写本 句点 返点題簽「通史外編」の帙

に収む

通史年表 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*60-1*

【葉数】 一冊目四十葉(墨付三十六葉) 二冊目三十八葉

(墨付三十七葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「通史年表」

【備考】 「辛酉元年(西州前六百六十年)」から「元治元年

(千八百六十四)」までの年表 欄外書き入れあり 題簽

「通史年表」の帙に収む

起草 五冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*27-1*

【葉数】 一冊目三十八葉(墨付三十七葉) 二冊目三十葉

(墨付二十葉) 三冊目十七葉(墨付二葉) 四冊目三

十一葉(墨付二十四葉) 五冊目十七葉(墨付八葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「起草」

【備考】 草稿・覚書集 一冊目表紙に「戊申」「七月」と小字書き付けあり 四冊目の外題「七輯起草」を朱にて「九々幾草」と訂正す 五冊目の外題「九九幾起草」 一冊目の第十六葉裏と第十七葉表の間に挟み物あり、「殊壽不貳」と題する追悼文 五冊目の第三葉裏と第四葉表の間に明治四十年二月刊『遊履餘痕』の小片の正誤表「遊履餘痕正誤」を挟む 題簽「起草」の帙に収む

七香齋文叢

三冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*22-1*

【葉数】 一冊目四十九葉（墨付四十七葉） 二冊目六十葉（墨付五十八葉） 三冊目六十四葉（墨付六十三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋文叢 一（二）（三）」

【備考】 精写本 句点 返点 朱墨書き入れ 題簽「七香齋文叢」の帙に収む

知音九奏

一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2*甲*35*

【葉数】 二十七葉

【外題】 内題「知音九奏」

【内題】 書き付け外題「知音九奏」

【備考】 精写本 「慶賀部」「飲宴部」「寄贈部」「酬和部」「尋訪部」「送別部」「題詠部」「次韻部」「聯句部」に分ち、知友が南岳に寄せた漢詩を収載する 題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

賞心清事

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*47*

【葉数】 三十葉（墨付八葉）

【外題】 内題「賞心清事」

【内題】 書き付け外題「賞心清事」

【備考】 「七」と「九」を用いた漢語を集録した覚書 朱点墨書による書き入れ 題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

大阪名家考

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*61*

【葉数】 二十四葉（墨付十八葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大阪名家考」

【備考】 「大阪府誌総目」「名家考」よりなる「名家考」は江戸期における大阪の名家を簡潔に記述する 欄眉書き入れ 題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

三府通誌料

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*62*

【葉数】 九十六葉（墨付六十五葉）

【外題】 内題「三府通誌料」

【内題】 書き付け外題「三府通誌料」

【備考】 江戸・大阪・京都の建置沿革を述べたあと大阪の地誌や人物について考証する 巻末に「以明治四十四爲断限」とあり 朱墨書き入れ 題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

名家墓所集

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*63*

【葉数】 四十二葉（墨付四十一葉）

【外題】 内題「名家墓所集」

【内題】 書き付け外題「大阪名家墓所集」

【備考】 扉に「墓所集」とあり 大阪の名家多数につき生
卒年と墓所を考証する 題簽「大阪名家墓所集 外」の
帙に収む

名士傳料 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2*甲*64*

【葉数】 十五葉（墨付十一葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大坂 名士傳料」

【備考】 欄外書き入れは南岳筆 大阪の名士につき伝記を記
す 句点 題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

海内詩傳 一冊 藤澤南岳著 抄写写未詳

LH2*甲*65*

【葉数】 五十二葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「海内詩傳 二」

【備考】 江戸後期・明治の漢詩人の伝記と漢詩を載せる

朱点 欄外書き入れ 題簽「大阪名家人物傳 海内詩傳・

府誌草」の帙に収む

府誌草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*66*

【葉数】 三十五葉（墨付十三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「府誌草 郡部」

【備考】 大阪府誌の覚書 題簽「大阪名家人物傳 海内詩
傳・府誌草」の帙に収む

浪華人物誌草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*67*

【葉数】 四十一葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「浪華人物誌草」

【備考】 大阪の人物多数の伝記を考証整理している 精写
本 欄外書き入れ 題簽「浪華人物誌草」の帙に収む

大阪府誌草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*68*

【葉数】 二十一葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大阪府誌草」

【備考】 大阪府誌の草稿 卷末に「豊太閤大坂城中壁書」を
附す 題簽「浪華人物誌草」の帙に収む

翰林九福 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*69*

【葉数】 十八葉（墨付十一葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「名賢 翰林九福 藝苑」

【備考】 見返しに「名賢 翰林九福」とあり 日本の古今
の名賢につき「安逸」「通顯」「壽考」「譽望」「廟祀」等

の分類のもとに人名と簡単な略歴を記した草稿 朱筆書
き入れあり 題簽「翰林九福・藝苑録事・芳號九流」の

帙に収む

名士九命草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*70-1*

【葉数】 十五葉（墨付十一葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「名士九命草」

【備考】 表紙右上に「文章 名士九命草 知遇」、表紙右下に「箋ノ二」「花」（朱書き）と書き付け [H21/甲六九と一連の草稿 朱筆書き入れあり 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

九命草 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*70-2*

【葉数】 二十三葉（墨付十一葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「九命草」

【備考】 [H21/甲六九と一連の草稿 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芸窓録事

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*71*

【葉数】 四十一葉（墨付二十葉）

【外題】 内題「芸窓録事」

【内題】 書き付け外題「芸窓録事」

【備考】 「別号録」と「亡友録」よりなるが後者は篇題のみ 「別号録」は知友門人の別号を列挙した覚書で「門生」の項目もあり 末尾奥書に「大正八年己未消夏襍録 香翁手記 七月一日雨」とあり 見返しと第一葉表の間に前に「詩 老夫子 遊履餘痕 一」と墨書した挟み物あり 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*72-1*

【葉数】 三十三葉

【外題】 内題「芳號九流」

【内題】 書き付け外題「芳號九流」

【備考】 知友門人の号を五十音順で列挙する 巻末奥書に「改目為九家者流 文學 詞藻 墨客 畫匠 医門 頭陀 算工 茶博 閨秀」「今所録浪華而已要更収録海内」と朱書される 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*72-2*

【葉数】 二十四葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「芳號九流」

【備考】 知友門人の号を列挙したもの [H21/甲七二一より詳しい 奥書に「以明治二十四年為断」「此歳年五十以上者皆録之少者不得詳其終故不録」「既亡者皆録之不問老幼」「不可仰敬者不録只小技亦可實可賞則録之」とあり 第十八葉袋とじ内に「西山氏名八成章字八子達」に始まる南岳手筆の短い伝記あり 朱墨書き入れ 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*72-3*

【葉数】 三十八葉（墨付十九葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「芳號九流 明大」

【備考】 明治・大正期の邦人の号を「安以宇江遠」「加幾久計古」のように五十音順で列挙する 題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流草稿

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*72-4*

【葉数】二十八葉（墨付二十七葉）

【外題】内題なし

【内題】書き付け外題「芳號九流草稿」

【備考】知友門人の号を列挙する 題簽「翰林九福・藝窓」

録事・芳號九流」の帙に収む

芳號九流草稿

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*72-5*

【葉数】四十六葉（墨付三十七葉）

【外題】内題なし

【内題】書き付け外題「芳號九流草稿」

【備考】邦人の号を列挙した覚書 題簽「翰林九福・藝窓」

録事・芳號九流」の帙に収む

歸厚年表草

一枚 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*73-1*

【外題】内題「歸厚年表草」

【内題】書き付け外題「歸厚年表草」

【備考】伊藤仁齋以降の江戸時代の儒者の卒年を記した覚書

題簽「歸厚年表・老部」の帙に収む

歸厚年契

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*73-2*

【葉数】二十四葉（墨付二十三葉）

【外題】内題なし

【内題】書き付け外題「歸厚年契」

【備考】各葉上隅に小字で「丙寅」「戊辰」のように干支を書き入れる 記事は「乙酉」葉に「宝永二 三月仁齋卒」、

「戊申」葉に「享保十三 徂徠卒」の二条の記入があるのみ 名家の卒年を記するためのノートとして準備されたものである 題簽「歸厚年表・老部」の帙に収む

老部 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*74*

【葉数】二十九葉（墨付二十九葉）

【外題】内題なし

【内題】外題なし

【備考】「六十一」から「一百十八」に至る番号を附し古今の邦人の名を列挙する 朱筆による書き入れ 第一葉袋とじ内に諸人の卒年を記した覚書あり 題簽「歸厚年表・老部」の帙に収む

表・老部」の帙に収む

儒臣大事表

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*75*

【葉数】十七葉（墨付十七葉）

【外題】内題なし

【内題】書き付け外題「儒臣大事表 七香齋餘筆」

【備考】慶長十九年から癸未（一九四三年）に至る年号一覧表を作り、儒者の死去と卒年を当該年に記入する 題簽「儒臣大事表・先哲生卒年考」の帙に収む

簽「儒臣大事表・先哲生卒年考」の帙に収む

先哲生卒年考

一冊 藤澤南岳著

LH2*甲*76*

【葉数】三十二葉（墨付二十八葉）

【外題】内題「先哲生卒年考」

【内題】書き付け外題「七香齋餘筆」

【備考】永禄四年「藤原惺窩生于播州細河邑」に始まり、文政九年「三月九日龜田鵬齋歿年七十五」に至る、江戸時代の儒者年表 墨筆による訂正多し 題簽「儒臣大事表・先哲生卒年考」の帙に収む

の儒者年表 墨筆による訂正多し 題簽「儒臣大事表・先哲生卒年考」の帙に収む

明史人名抄

一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*77*

【葉数】 八十二葉（墨付八十二葉）

【外題】 内題「明史人名抄 上」

【内題】 外題なし

【備考】 巻頭に「恒手録」とあり 『明史』所載の人名のみ

を列挙する 韻字ごとに人名を分類し、人名の下に『明史』の伝の巻数を小字で記す 朱点 欄眉に墨書き入れ多し 題簽「明史人名抄」の帙に収む

清統譜

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*781*

【葉数】 一冊目四十八葉（墨付四十八葉） 二冊目三十葉

（墨付三十葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「清統譜」

【備考】 韻字ごとに人名を分類し、字号・貫籍などを記す

題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

清人總目

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*79*

【葉数】 二十二葉（墨付七葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「清人總目」

【備考】 清代の学者の名のみを五十音順に列挙した覚書

題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

清士小傳

二冊 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆力

LH2*甲*80*1

【葉数】 一冊目四十六葉（墨付四十六葉） 二冊目七十二

葉（墨付七十二葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「清士小傳」

【備考】 清人の名を韻字ごとに分類して列挙し、まます小伝を双行で附した人名録 外題のみ南岳筆 精写本 題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

唐土老部

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*81*

【葉数】 十一葉（墨付十一葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「唐土老部」

【備考】 各葉上部に「七十」以降の数字を記し「九十以上」

に至る 人名を少数ながら記し、「七十 范成大」に始まって「沈歸愚 九十五」に終わる（沈歸愚は清の沈徳潜） 数字は享年であるう 題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

唐人名彙

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*82*

【葉数】 六十葉（墨付五十八葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋餘筆」

【備考】 清人の名を「安」「加」から「也」「羅」まで五十

音順で九部に分けて列挙する 部ごとに「宰輔」「詞臣」「諫臣」「經學」などの項目を朱で記す 詳細な人名録 題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

明清名彙

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*83*

【葉数】 五十六葉（墨付五十六葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「明清名彙」
【備考】 冒頭に漢字を五十音順で掲げて目次とし、ついで「安鴻漸」以下の人名を列挙する。ただし人物はすべて宋人である。書名の「明清名彙」はかつて図書館が決め

たものであるが、「宋人明彙」と改めるべきである。本書は題簽「全唐文詩人名總目・明清名彙」の帙に収められるが、この題簽名も訂正を要する。

全唐文詩人名總目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*84*

【葉数】 七十二葉（墨付七十二葉）

【外題】 内題「全唐文詩人名總目」

【内題】 書き付け外題「七香齋餘筆」

【備考】 五十音順に人名を列挙し、人名の下に『全唐文』の当該巻数を小字で記す。詳細な人名録。精写本。欄外に書き入れあり。題簽「全唐文詩人名總目・明清名彙」の帙に収む。

建置沿革 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*85*

【葉数】 十四葉（墨付十四葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「建置沿革」

【備考】 日本の諸郡建置の沿革に関する覚書。題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む。

地名考 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*86*

【葉数】 三葉（墨付三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「地名考」
【備考】 冒頭に「州郡部」とあり。日本の一部の州郡部地名に関する考証覚書。題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む。

吉備地志料 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*87*

【葉数】 十六葉（墨付十六葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「吉備地誌料」

【備考】 「和氣郡」「赤坂郡」「児嶋郡」「御野郡」「上道郡」「磐梨郡」「津高郡」「邑久郡」に分けて地名のみ記す。墨書による訂正あり。題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む。

讃岐地志料凡例 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*88*

【葉数】 六葉（墨付六葉）

【外題】 内題「地志料」

【内題】 書き付け外題「讃岐地誌料凡例」

【備考】 讃岐の地誌につき「目次」「地誌略稿例」を記し、「建置沿革」その他について草した覚書。題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む。

讃岐地志料 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*89*

【葉数】 二十六葉（墨付二十五葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「讃岐地誌料」

【備考】 「大内郡」「寒川郡」「山田郡」「香川東郡」「香川西郡」「阿野北郡」「阿野南郡」「那珂郡」「多度郡」「三野郡」「豊田郡」「小豆島」について地誌を考証する。ただしそのあとに続く「巨麻郡」「山梨郡」「八代郡」「都留郡」は讃岐ではなく甲斐の郡名である。欄外に書き入れあり。題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む。

文章九彩

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*90*

【葉数】 五十四葉（墨付五十二葉）
 【外題】 内題「文章九彩」
 【内題】 書き付け外題「文章九彩」
 【備考】 和文 大正五年四月刊『文章九彩』の浄書稿本であらう。精写本。題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む。

短古韻範九格

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*91*1

【葉数】 二十葉
 【外題】 内題「短古韻範九格」
 【内題】 書き付け外題「短古九格」
 【備考】 内題「短古韻範九格」の上部欄肩に「古押九格」と記す。朱点。朱墨書き入れ。大正五年四月刊『古押九格』の浄書稿本であらう。精写本。題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む。

短古韻範

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*91*2

【葉数】 七葉
 【外題】 内題「短古韻範」

【内題】 書き付け外題「短古韻範九格」
 【備考】 内題「短古韻範」の下に「九格」と朱書す。朱墨書き入れあり。題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む。

九格詳註

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*92*

【葉数】 三十二葉
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題「九格詳註」
 【備考】 『古押九格』のための草稿であらう。朱墨書き入れ多し。第十五葉裏に朱筆で泊園書院における「日課」を載せ「九月二十一日記」と記す。題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む。

簡字九韻

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*93*1

【葉数】 三十一葉
 【外題】 内題「簡字九韻」
 【内題】 書き付け外題「簡字九韻」
 【備考】 漢字を「一」「同」「二音」「三節」「四新」「五奇」「六目」「七高」「八雅」「九緝」の九部に分類した韻書。朱書の書き入れ多し。題簽「文章九彩・短古九格 外」の帙に収む。

簡字九韻

一冊 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆力

LH2*甲*93*2

【葉数】 二十六葉
 【外題】 内題「簡字九韻」
 【内題】 書き付け外題「簡字九韻」

【備考】 LH21/甲九三 一の精写本 外題のみ南岳自筆
題簽「文章九彩・短古九格 外」の帙に収む

詩韻玉粹 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*94*1

【葉数】 二十葉

【外題】 内題「詩韻玉粹 卷下」

【内題】 書き付け外題「詩韻玉粹」

【備考】 卷上を欠く 朱墨書き入れ多し 題簽「文章九彩・

短古九格 外」の帙に収む

詩韻玉粹 一冊 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆力

LH2*甲*94*2

【葉数】 三十六葉（墨付三十五葉）

【外題】 内題「詩韻玉粹」

【内題】 書き付け外題「詩韻玉粹」

【備考】 LH21/甲九四 一の精写本 内題のみ南岳自筆

朱墨書き入れ 題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

韻略九圖 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*95*

【葉数】 三十九葉（墨付三十四葉）

【外題】 内題「韻略九圖」

【内題】 書き付け外題「臥遊餘事」

【備考】 朱筆による訂正あり 題簽「詩韻玉粹・韻雅」の

帙に収む

韻雅詳註 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*96*

【葉数】 六十八葉

【外題】 内題「韻雅詳註」

【内題】 書き付け外題「韻雅詳註」

【備考】 明治四十年十月刊『韻雅』につき、韻字の下に当

該韻字を用いた熟語を双行注で記す ただし「下平声

一先」から始まって「四支」（上平声）が続き、ついで

「二蕭」（下平声）に移るなど、乱丁があるようである

題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

韻雅 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*97*1

【葉数】 六十五葉（墨付六十三葉）

【外題】 内題「韻雅」

【内題】 書き付け外題「輯韻 全」

【備考】 卷二から巻五の題は「輯韻」 明治四十年十月刊

『韻雅』の前半部分の草稿 欄外書き入れ多し 題簽「詩

韻玉粹・韻雅」の帙に収む

韻雅 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*97*2

【葉数】 三十九葉

【外題】 内題「韻雅」

【内題】 書き付け外題「韻雅 下」

【備考】 明治四十年十月刊『韻雅』の後半部分の草稿 欄

外朱墨書き入れ多し 奥書に「清施何牧着韻雅五卷故改

名韻綜」、朱筆で「又按作韻典亦可」とあり 題簽「詩韻

玉粹・韻雅」の帙に収む

韻雅 一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*97*3

【葉数】 四十六葉（墨付四十五葉）

【外題】 内題「韻雅」

【内題】 外題なし

【備考】 明治四十年十月刊『韻雅』の浄書稿本 精写本

朱墨書き入れ 題簽「韻雅」の帙に収む

詩韻貫綜

三冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*98*1

【葉数】 一冊目二十一葉 二冊目二十三葉(墨付二十一葉)

二冊目七十三葉(墨付七十二葉)

【外題】 卷十一巻頭に内題「詩韻貫綜」あり

【内題】 外題なし

【備考】 韻字の下に当該韻字を用いた熟語を双行注で記す

一冊目は「一送」から「七遇」まで(去声)、二冊目は「一董」から「二十一養」まで(上声)、三冊目は「九泰」から「三十陷」まで(去声)、ついで「一屋」から「十七洽」まで(入声) 二冊目と三冊目にはところどころ落丁あり 欄外書き入れ 題簽「詩韻貫綜」の帙に収む

詁略

四冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*99*1

【葉数】 一冊目三十五葉(墨付二十四葉) 二冊目三十葉

(墨付十六葉) 三冊目三十六葉(墨付十三葉) 四冊

目二十三葉(墨付二十二葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「詁略 上(上平)(下平)(去)」

【備考】 難解な漢語につきその意味と出典を記した一種の

漢語語彙辞書 漢語末字の韻により分類する 二冊目第

二十九葉裏と第三十葉表の間に挟み物あり、「茶具」と題

し様々な茶具の別名ついて意味を記す(南岳手書) 題

簽「詁略」の帙に収む

簡字九韻

一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*100*

【葉数】 二十六葉(墨付二十五葉)

【外題】 内題「簡字九韻」

【内題】 書き付け外題「簡字九韻稿」

【備考】 韻書稿本 LH1-1/甲九三 一〇九三 二の「簡

字九韻」と同名だが韻の分類は異なり「東」韻から始まる 欄外書き入れあり 題簽「簡字九韻」の帙に収む

詩韻貫綜

三冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*98*1

【葉数】 一冊目二十一葉 二冊目二十三葉(墨付二十一葉)

三冊目七十三葉(墨付七十二葉)

【外題】 卷十一巻頭に内題「詩韻貫綜」あり

【内題】 外題なし

【備考】 韻字の下に当該韻字を用いた熟語を双行注で記す

一冊目は「一送」から「七遇」まで(去声)、二冊目は「一董」から「二十一養」まで(上声)、三冊目は「九泰」から「三十陷」まで(去声)、ついで「一屋」から「十七洽」まで(入声) 二冊目と三冊目にはところどころ落丁あり 欄外書き入れ 題簽「詩韻貫綜」の帙に収む

談老

二冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*101*1

【葉数】 一冊目四十八葉 二冊目四十二葉

【外題】 内題「談老」

【内題】 書き付け外題「談老 乾(坤)」

【備考】 楷書本 句点 朱点 送り仮名 返点 朱墨書き

入れ多し 題簽「談老」の帙に収む

談老 二冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*102*1

【葉数】 一冊目四十三葉 二冊目三十七葉

【外題】 内題「談老」

【内題】 書き付け外題「談老 乾(坤)」

【備考】 行書本 朱点 送り仮名 返点 朱墨書き入れ多し 題簽「談老」の帙に収む

莊子南華真經箋疏

十冊一帙 郭象註 藤澤東袞箋

藤澤南岳評疏 藤澤南岳筆

LH2*甲*103*1

【葉数】 一冊目二十八葉 二冊目二十九葉 三冊目二十四

葉 四冊目二十七葉 五冊目三十五葉 六冊目葉 七冊

目二十八葉 八冊目三十八葉 九冊目三十一葉 十冊目

二十七葉

【外題】 内題「莊子南華真經」

【内題】 書き付け外題「南華箋疏 一(二)(三)(四)(五)

(六)(七)(八)(九)(十)」

【備考】 欄眉注 句点 朱点 送り仮名 返点 行間・欄外とも朱墨書き入れ多し 題簽「南華箋疏」の帙に収む

中庸講義

二冊一帙 藤澤南岳講述 米倉領次郎筆記

藤澤南岳書き入れ 鉛印

LH2*甲*104*1

【葉数】 一冊目五十葉 二冊目七十九葉

【外題】 内題「中庸講義」

【内題】 外題なし

【備考】 見返しに「藤澤南岳先生講述 米倉領次郎筆記 中庸講義 大阪書房 文海堂發行」、奥付に「明治三十

八年六月十日印刷 同三十八年六月十五日發行」著作

者 松村九兵衛」「發行者 松村九兵衛」「賣捌所 林平

次郎」「印刷者 井上仲藏」とあり 句点 返点 行間・

欄外に朱墨書き入れ 題簽「中庸講義」の帙に収む

中庸注

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*105*

【葉数】 四十二葉(墨付三十六葉)

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし 仮に「中庸注」と題す

【備考】 欄外書き入れ 朱墨書き入れ多し 題簽「中庸讀本」の帙に収む

中庸讀本

一冊 藤澤南岳著 藤澤黃鵠筆

LH2*甲*106*

【葉数】 十二葉

【外題】 内題「中庸讀本」

【内題】 書き付け外題「中庸讀本」

【備考】 精写本 句点 送り仮名 返点 行間・欄外に書き入れ 卷末に「男元校」とあり 題簽「中庸讀本」の帙に収む

論語分類

一冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*107*

【葉数】 七十一葉

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 行間・欄外ともに書き入れ多し 行間・欄外に朱墨書き入れ 明治二十五年刊「論語彙纂」の草稿か 題簽「論語分類」の帙に収む

七香齋叢書

二十七冊四帙 藤澤南岳編 藤澤南岳等筆

LH2*甲*108*1

【葉数】 一冊目十八葉 二冊目二十葉 三冊目四十葉 四冊目二十四葉 五冊目二十一葉 六冊目三十三葉 七冊目三十葉 八冊目四十葉 九冊目三十七葉 十冊目四十八葉 十一冊目三十二葉 十二冊目五十五葉 十三冊目四十四

【外題】 内題「七香齋叢書」
 【内題】 書き付け外題「叢書」
 【備考】 句点 返点 朱点 欄外書き入れ多し 朱墨書き入れあり 一冊目～五冊目は題簽「七香齋叢書 一」の帙に収む 六冊目～十一冊目は題簽「七香齋叢書 二」の帙に収む 十二冊目～二十冊目は題簽「七香齋叢書 三」の帙に収む 二十一冊目～二十七冊目は題簽「七香齋叢書 四」の帙に収む

七香齋類函

二十九冊四帙 藤澤南岳編 藤澤南岳等筆

LH2*甲*109*1

【葉数】 一冊目三葉 二冊目十四葉 三冊目二十六葉（墨付二十三葉） 四冊目十一葉（墨付七葉） 五冊目四十四葉 六冊目三十七葉（墨付四葉） 七冊目四十七葉 八冊目二十八葉 九冊目十四葉 十冊目十三葉 十一冊目二十八葉

【外題】 内題「七香齋類函」
 【内題】 書き付け外題「七香齋類函」
 【備考】 一冊目に「七香齋類函総目」を収む 朱点 句点 朱墨書き入れ多し 欄外書き入れ多し 明治二十二年以降に刊行された『七香齋類函』の稿本 一冊目～九冊目は題簽「七香齋類函 一」の帙に収む 十冊目～十六冊目は題簽「七香齋類函 二」の帙に収む 十七冊目～二十四冊目は題簽「七香齋類函 三」の帙に収む 二十五冊目～二十九冊目は題簽「七香齋類函 四」の帙に収む

七香齋類函

二十二冊二帙 藤澤南岳編 藤澤南岳等筆

LH2*甲*110*1

【葉数】 一冊目五葉 二冊目三十八葉 三冊目十三葉 四冊目二十四葉 五冊目十六葉 六冊目十六葉 七冊目十葉 八冊目十葉 九冊目十一葉 十冊目五十一葉 十一冊目二十七葉 十二冊目二十七葉 十三冊目二十四葉（墨付二）

【外題】 内題「七香齋類函」
 【内題】 書き付け外題「七香齋類函」
 【備考】 精写本 明治二十二年以降に刊行された『七香齋類函』の浄書稿本 句点 返点 朱墨書き入れ多し 朱墨欄外書き入れ多し 一冊目～十三冊目は「題簽「七香齋類函 上」の帙に収む 十四冊目～二十二冊目は題簽「七香齋類函 下」の帙に収む

七香齋吟草

六冊二帙 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*111*1

【葉数】 一冊目六十九葉 二冊目九十八葉 三冊目百二十三葉 四冊目百十五葉 五冊目九十七葉 六冊目百二十四葉（墨付百二十三葉）

【外題】 内題「七香齋吟草」
 【内題】 書き付け外題「七香齋吟草 一（二）（三）（四）（五）（六）」
 【備考】 精写本 句点 朱筆による書き入れ多し 附箋貼り付け多し 一冊目～三冊目は「題簽「七香齋吟草 上」

帙」の帙に収む 四冊目、六冊目は題簽「七香齋吟草
下帙」の帙に収む

詩文稿 四冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*112*1

【葉数】 一冊目四十八葉(墨付四十六葉) 二冊目四十九
葉(墨付四十八葉) 三冊目五十葉(墨付四十五葉)

四冊目二十九葉(墨付二十八葉)

【外題】 内題「詩文稿」

【内題】 書き付け外題「詩文稿 一」(一冊目)、「詩文稿

三」(二冊目)、「詩文稿 五」(三冊目)、「壬申稿 明治
五年」(四冊目)

【備考】 南岳早期の漢詩文原稿 朱点 朱墨書き入れ多し
題簽「南岳先生詩文稿」の帙に収む

七香齋吟草 十七冊三帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*113*1

【葉数】 一冊目七十八葉(墨付七十二葉) 二冊目五十三

葉 三冊目六十七葉(墨付六十六葉) 四冊目八十四

葉(墨付六十七葉) 五冊目二十八葉 六冊目五十四葉

(墨付五十葉) 七冊目四十九葉(墨付三十五葉) 葉

【外題】 内題「七香齋吟草」

【内題】 書き付け外題「七香齋吟草 一」(一)、「三」(四)

(五)、「六」(七)、「八」(九)、「一冊目、九冊目」、「七香齋

吟草 別集」(十冊目)、「七香齋吟草」(十冊目、十二冊

目)、「交情 四」(十三冊目)、「節序 一」(十四冊目)、「

七香齋吟草 十五」(十五冊目)、「七香齋吟草 六十

七」(十六冊目)、「七香齋吟草 七」(十七冊目)

【備考】 朱点句点 朱墨書き入れ多し 一冊目、六冊目は

題簽「七香齋吟草 一」の帙に収む 七冊目、十六冊目

は題簽「七香齋吟草 二」の帙に収む 十七冊目は題簽

「七香齋吟草」の帙に収む

周易輯疏 七冊一帙 藤澤南岳著 鉛印

LH2*甲*114*1

【葉数】 一冊目二十一葉 二冊目三十七葉 三冊目三十一

葉 四冊目二十六葉 五冊目三十一葉 六冊目三十葉

七冊目二十九葉

【外題】 内題「周易輯疏」

【内題】 書き付け外題「輯疏 乾坤 一」(一冊目)、「輯疏

一」(二冊目)、「輯疏 三」(三冊目)、「四」(四冊目)、
「輯疏 缺明夷 五」(五冊目)、「六」(六冊目)、「七」(七
冊目)

【備考】 藤澤南岳による墨書補筆部分あり 句点 朱墨返
り点 書き入れ 欄外朱墨書き入れ 題簽「周易輯疏」
の帙に収む

周易輯疏 四冊一帙 藤澤南岳著 鉛印

LH2*甲*115*1

【葉数】 一冊目七十七葉 二冊目四十五葉 三冊目五十二

葉 四冊目五十五葉

【外題】 内題「周易輯疏」

【内題】 書き題簽「周易輯疏 元(亨)(利)(貞)」

【備考】 藤澤黄坡のものと思われる墨書補筆部分あり 句
点 朱墨書き入れ 欄外朱墨書き入れ 題簽「周易輯疏」
の帙に収む (LH2/甲114とは別の帙)

史料 七冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*137*1

- 【葉数】 一冊目十九葉（墨付六葉） 二冊目二十葉（墨付六葉） 三冊目十八葉（墨付〇葉） 四冊目十三葉（墨付〇葉） 五冊目十三葉（墨付〇葉） 六冊目二十葉（墨付〇葉） 七冊目十八葉（墨付十五葉）
- 【外題】 内題なし
- 【内題】 書き付け外題「史料 一（二）（三）（六）（七）（九）（十）」
- 【備考】 一冊目内題「國名考」 七冊目内題「襍考十諸号考」 題簽「史料・涉瑣録」の帙に収む

草稿帝紀料 一冊 藤澤南岳著力

LH2*甲*136*

- 【葉数】 十八葉
- 【外題】 内題なし
- 【内題】 書き付け外題「草稿帝紀料 一」
- 【備考】 題簽「史料・涉瑣録」の帙に収む

皇和類苑料 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*135*

- 【葉数】 五十五葉（墨付五十葉）
- 【外題】 内題なし
- 【内題】 書き付け外題「皇和類苑料 一」
- 【備考】 書き入れ 欄外書き入れ 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

探奇小記 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*123*

- 【葉数】 三十三葉
- 【外題】 内題「探奇小記」
- 【内題】 書き付け外題「探奇小記」

- 【備考】 明治二十年七月刊『探奇小録』の草稿 朱筆・緑筆・筆書による書き入れ多し 題簽「七香齋文稿」の帙に収む

探奇小録 一冊 藤澤南岳著 抄写者未詳

LH2*甲*124*

- 【葉数】 十七葉
- 【外題】 内題「探奇小録」
- 【内題】 書き付け外題「探奇小録」
- 【備考】 明治二十年七月刊『探奇小録』の浄書原稿 朱墨による書き入れあり 題簽「七香齋文稿」の帙に収む

浪華雜詠填被集 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*120*

- 【葉数】 七葉（墨付二葉）
- 【外題】 内題「浪華雜詠填被集」
- 【内題】 書き付け外題「浪華襍詠」
- 【備考】 朱点 朱墨書き入れ 朱墨欄外書き入れ 「七香齋吟稿 三」の帙に収む

和陶飲酒詩 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*119*

- 【葉数】 七葉（墨付二葉）
- 【外題】 内題「和陶飲酒詩」
- 【内題】 書き付け外題「和陶詩」
- 【備考】 小野湖山・山田永年（清）魏繇等批注 朱点 朱筆・緑筆・筆書による書き入れ 「七香齋吟稿 三」の帙に収む

七香齋吟稿 八冊三帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*118*1

【葉数】 一冊目二十四葉 二冊目五十葉 三冊目七十葉

四冊目四十三葉 五冊目百三葉 六冊目四十七葉 七冊

目五十六葉 八冊目五十八葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋吟稿」

【備考】 句点 朱点 批注者による朱筆・青筆・黄筆・緑

筆・茶筆・筆書の書き入れ多し 欄外書き入れ甚だ多し

七冊目に批注者の印多数あり 題簽「七香齋吟稿 一」

「七香齋吟稿 二」の帙に収む

七香齋文稿

二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*122*1

【葉数】 一冊目八十七葉 二冊目八十五葉（墨付八十四葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋文稿 乾（坤）」

【備考】 精写本 句点 朱点 朱墨書き入れ 題簽「七香

齋文稿」の帙に収む

七香齋文稿

八冊二帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*125*1

【葉数】 一冊目三十一葉（墨付二十八葉） 二冊目三十九

葉 三冊目六十二葉 四冊目五十葉（墨付四十七葉）

五冊目百十五葉（墨付百十四葉） 六冊目八十二葉 七

冊目七十四葉 八冊目百十二葉

【外題】 内題「七香齋文稿」

【内題】 書き付け外題「七香齋文稿（一）（二）（三）（四）（五）

（六）（七）（八）」

【備考】 南岳の文章を最も広く収めた文集原稿 朱墨によ

る書き入れ多し 題簽「七香齋文稿」の帙に収む

引用書目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*141*

【葉数】 七十葉（墨付四十五葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「引用書目」

【備考】 横小本 イロ八順に国書のみ記す 卷末に「丙戌

二月 二百 乙酉十月 百零七」とあり 題簽「鶏窓餘

筆・代耕録」の帙に収む

鶏窓餘筆

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*142*

【葉数】 九十三葉（墨付五十九葉）

【内題】 外題なし

【備考】 横小本 座右備忘帳力 第一葉、第四葉が清濯瀨

著、藤澤南岳抄「四書考異抄」、第六葉、第二十八葉が「鶏

窓餘筆」、第二十九葉が親交ある学者の住所録、第三十三

葉以下は様々な覚書 朱墨による書き入れ 題簽「鶏窓

餘筆・代耕録」の帙に収む

代耕録

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*143*

【葉数】 百三葉（墨付二十五葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「代耕録」

【備考】 横小本 座右備忘帳力 題簽「鶏窓餘筆・代耕録」

の帙に収む

莊子標疏

二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*144*1

【葉数】 一冊目三十三葉 二冊目二十八葉（墨付二十一葉）

【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題「標疏」
 【備考】 横本『莊子』の語句に注解を施したものの精写
 本題簽「標疏」の帙に収む

七香齋類函目録

一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*140*

【葉数】 八十九葉（墨付六十一葉）

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 横小本 卷六から巻百までの目録のみ記す 『七香齋類函』の目録稿であるう 末尾に「製本録」あり

題簽「成語索引」の帙に収む

成語索引

五冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*139*1

【葉数】 一冊目三十五葉 二冊目三十一葉（墨付三十葉・

背表紙墨付含む） 三冊目十八葉（墨付十六葉・背表紙

墨付含む） 四冊目二十五葉（墨付二十四葉） 五冊

目十六葉（墨付十三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「安加」（一冊目）、「左」（二冊目）、「

多奈」（三冊目）、「波滿」（四冊目）、「也來話」（五冊目）

【備考】 漢語の成語を多数掲げるとともに、その出典と用

例を示す 朱墨による書き入れ多し 題簽「成語索引」の帙に収む

涉瑣録

六冊 藤澤南岳編 藤澤南岳等筆

LH2*甲*138*1

【葉数】 一冊目三十二葉 二冊目二十六葉 三冊目五十二葉（墨付二十四葉） 四冊目三十二葉 五冊目七十五葉

六冊目十八葉

【外題】 内題「涉瑣録」（二冊目巻頭）

【内題】 書き付け外題「涉瑣録 一（二）（三）（四）（五）（六）」

【備考】 諸家の諸文を集録 精写本一冊目 『蒙求統貂』

『桑華蒙求』『左傳蒙求』の序跋と目次を書写する二冊目

「宋詩抄」（清吳之振撰）、「叙」（鐵研學人齋藤謙撰）、「

咏牡丹花白百絶」（平安後進好事儒者陽軒）、「鴨川朗詠

集跋」（松坂家里典識於一身田僑居益堅齋）、「答問日本風

俗」、「明治五年始テ學制ヲ公布セラレシヨリ今二十三年

年」に始まる和文三冊目 「題釋奠考首」、「釋奠考」（中

谷輝（雲漢）、「先子文評」として、書林谷山人遺稿前「

（阿部絹洲）、「政記存疑」（五弓久文）、「深慨十律」（淮水

老杜多）を抄録す

泊園擷芳集

十三冊三帙 藤澤黃鶴 越智宣哲等泊園門

人筆

LH2*甲*200*1

【葉数】 一冊目九十一葉（墨付六十四葉） 二冊目三十九

葉 三冊目四十四葉（墨付二十四葉） 四冊目四十二葉

（墨付十五葉） 五冊目四十七葉（墨付十葉） 六冊目

四十六葉（墨付四十一葉） 七冊目四十二葉（墨付

【外題】 内題「泊園擷芳集」

【内題】 外題「擷芳集」

【備考】 一冊目表紙に「擷芳集 詩」、第五十一葉冒頭に

「乙丑擷芳集」、第六十一葉冒頭に「己巳擷芳集」、第六十

五葉冒頭に「甲午擷芳集」とあり 二冊目書き題簽「擷芳集 詩二」、巻首に「泊園擷芳集卷之二」とあり 三冊目巻首に「泊園擷芳集卷之三」とあり 四冊目表紙に朱筆で「辛巳擷芳集 詩」、巻首に「泊園擷芳集卷之四」とあり 五冊目表紙に「泊園書院 擷芳集 五」、巻首に「泊園擷芳集卷之五」とあり 六冊目表紙に朱筆で「泊園書院 擷芳集 文」とあり 七冊目表紙に「泊園書院 擷芳文集 三」、巻首に「擷芳文集卷之三」とあり 八冊目表

潤金社會稿 一冊 藤澤黄鵠・黄坡等 藤澤黄鵠・黄坡等筆

LH2*甲*157*

【葉数】 十二葉（墨付十一葉）
【外題】 内題なし
【内題】 書き付け外題「潤金社會稿」
【備考】 表紙右上に「評閲限三日 要番次遞送」の書き付けあり 会員による漢詩冊 朱筆・墨筆・緑筆による欄眉・欄外の批語書き入れ多し 題簽「潤金社會稿 夫子近製鈔登載一覽」の帙に収む

泊園擷芳集 十三冊三帙 藤澤黄鵠 越智宣哲等泊園門人筆

LH2*甲*200*1

【葉数】 一冊目九十一葉（墨付六十四葉） 二冊目三十九葉 三冊目四十四葉（墨付二十四葉） 四冊目四十二葉（墨付十五葉） 五冊目四十七葉（墨付十葉） 六冊目四十六葉（墨付四十一葉） 七冊目四十二葉（墨付

甲部

【外題】 内題「泊園擷芳集」

【内題】 外題「擷芳集」

【備考】 一冊目表紙に「擷芳集 詩」、第五十一葉冒頭に「乙丑擷芳集」、第六十一葉冒頭に「己巳擷芳集」、第六十五葉冒頭に「甲午擷芳集」とあり 二冊目書き題簽「擷芳集 詩二」、巻首に「泊園擷芳集卷之二」とあり 三冊目巻首に「泊園擷芳集卷之三」とあり 四冊目表紙に朱筆で「辛巳擷芳集 詩」、巻首に「泊園擷芳集卷之四」とあり 五冊目表紙に「泊園書院 擷芳集 五」、巻首に「泊園擷芳集卷之五」とあり 六冊目表紙に朱筆で「泊園書院 擷芳集 文」とあり 七冊目表紙に「泊園書院 擷芳文集 三」、巻首に「擷芳文集卷之三」とあり 八冊目表

南岳黄鵠黄坡三先生手抄五種叢書 五冊一帙 藤澤

南岳・黄鵠・黄坡

LH2*甲*199*1

【葉数】 一冊目四十六葉 二冊目十八葉 三冊目五十一葉 四冊目六葉 五冊目七葉
【外題】 一冊目内題・外題なし 二冊目内題「鶏窗餘筆」 外題なし 三冊目内題「第一篇 上古史」 外題なし 四冊目内題「唐詩選七律講義筆記」 外題なし 五冊目内題「育的心理学」 外題なし
【備考】 一冊目は王世貞「文章九命」の逸事題目を掲げ、その出典等の考証を双行注で記す 「貧困」「嫌忌」「玷缺」「偃蹇」「流貶」「刑辱」「無終」「無後」に分類 精写本（南岳筆） 一冊目は内題「鶏窗餘筆」について「釋詁

部」とあり、『瀛環志略』を抜粋(南岳筆) 三冊目は支那史で上古から漢初までを述べる(黄鵠筆) 四冊目は「唐詩選七律講義筆記」(黄鵠筆) 五冊目は「教育的心理学」(黄鵠筆) 朱筆・墨筆による書き入れ 題簽「南岳黄鵠黄坡三先生手抄五種叢書」の帙に収む

七香齋類函材料 五冊二帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

【葉数】 一冊目十六葉(墨付七葉) 一冊目二十四葉(墨付二十一葉) 三冊目六葉 四冊目五十一葉(墨付五十葉) 五冊目二十葉

【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題「警策」(一冊目)、「裸考」(二冊目)、「ナシ」(三冊目)、「史徴」(四冊目)、「史徴」(五冊目)
 【備考】 朱点 朱墨書き入れ 朱墨欄外書き入れ 題簽「七香齋類函材料」の帙に収む

南岳黄鵠黄坡三先生手抄五種叢書 五冊一帙 藤澤南岳・黄鵠・黄坡

【葉数】 一冊目四十六葉 二冊目十八葉 三冊目五十一葉 四冊目六葉 五冊目七葉

【外題】 一冊目内題・外題なし 二冊目内題「鷄窗餘筆」 外題なし 三冊目内題「第一篇 上古史」 外題なし 四冊目内題「唐詩選七律講義筆記」 外題なし 五冊目内題「育的心理学」 外題なし

【備考】 一冊目は王世貞「文章九命」の逸事題目を掲げ、その出典等の考証を双行注で記す 「貧困」「嫌忌」「玷缺」「偃蹇」「流貶」「刑辱」「無終」「無後」に分類 精写本(南岳筆) 一冊目は内題「鷄窗餘筆」について「釋詁部」とあり、『瀛環志略』を抜粋(南岳筆) 三冊目は支那史で上古から漢初までを述べる(黄鵠筆) 四冊目は「唐詩選七律講義筆記」(黄鵠筆) 五冊目は「教育的心理学」(黄鵠筆) 朱筆・墨筆による書き入れ 題簽「南岳黄鵠黄坡三先生手抄五種叢書」の帙に収む

詩家説 四冊一帙 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆

【葉数】 一冊目三十四葉 二冊目六十葉 三冊目四十八葉 四冊目二十二葉(墨付二十一葉)

【外題】 内題「詩家説」
 【内題】 書き付け外題「詩家説 大雅」(一冊目)、「詩家説 小雅」(二冊目)、「詩家説 国風」(三冊目)、「詩家説 頌」(四冊目)
 【備考】 精写本 句点 返り点 朱墨書き入れ 欄外書き入れ 題簽「詩家説」の帙に収む

論語講義 十一冊一帙 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆

【葉数】 一冊目十一葉 二冊目十二葉 三冊目十四葉 四冊目二十一葉 五冊目十八葉 六冊目二十六葉 七冊目十四葉 八冊目十八葉 九冊目十六葉 十冊目十五葉 十一冊目十五葉

【外題】 内題「論語」
 【内題】 書き付け外題「論語」

【備考】 和文による詳しい講義原稿 朱墨による書き入れ多し 題簽「論語講義」の帙に収む

論語講義

二冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*175*1

【葉数】 一冊目二十九葉 二冊目三十一葉(墨付二十八葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「論語」

【備考】 和文による『論語』の講義原稿 ペン書き 書き入れ多し 題簽「論語講義 下」の帙に収む

孟子鈔註

一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*181*

【葉数】 二十七葉

【外題】 内題「孟子」

【内題】 書き付け外題「孟子 二」

【備考】 諸子鈔註の一 『孟子』離婁篇上を収む 墨筆小字による欄外・行間への書き入れ多し 裏表紙中央下に「藤澤氏」の書き付け 題簽「孟子鈔註」の帙に収む

周易

四冊一帙 藤澤黄坡抄 藤澤黄坡筆

LH2*甲*173*1

【葉数】 一冊目二十一葉(墨付十葉) 二冊目十二葉 三冊目十六葉(墨付十五葉) 四冊目十七葉(九葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「周易 地(黄)(宇)(宙)」

【備考】 『周易』本文に詳しい注を施したもの 天地玄黄宇宙分冊のうち天玄の二冊を欠く 三冊目と四冊目の裏表紙中央下に「西坡」とあり 西坡は明治二十六年までの黄坡の号 朱点 句点 書き入れ多し 題簽「周易黄坡手抄」の帙に収む

談老 二冊一帙 藤澤南岳著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*117*1

【葉数】 一冊目五十四葉 二冊目五十一葉

【外題】 内題「談老」

【内題】 外題なし

【備考】 「黄坡用箋」の原稿用紙を用う 黒ペン書き 句読点 訓点 青鉛筆・筆書きによる書き入れ 題簽「談老」の帙に収む

諸子鈔註

三冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*183*1

【葉数】 一冊目十葉 二冊目八葉 三冊目十二葉

【外題】 内題「諸子鈔註」

【内題】 外題なし

【備考】 諸子鈔註の三 一冊目は『墨子』親士篇、法儀篇、尚上篇上、兼愛篇中、非攻篇上の本文を引用し、和文小字で注を加う 二冊目は『世説新語』方正篇下を摘録し、和文小字双行で注を加う 欄外書き入れ(㊦一ノ甲一八五『世説新語補抄』の一部) 三冊目は原文を引用し和文で解説を加う 題簽「諸子鈔註」の帙に収む

論語副註

一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*178*

【葉数】 十葉

【外題】 内題「論語副註」

【内題】 書き付け外題「論語副註」

【備考】 漢文及び和文 『論語』の講義原稿 朱墨による書き入れ多し 題簽「論語講義 下」の帙に収む

老子鈔註

一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*182*

- 【葉数】 九葉
 【外題】 内題なし
 【内題】 外題なし
 【備考】 諸子鈔註の二 『老子』の一部の章を収む 朱点
 墨筆小字による欄外・行間への書き入れ多し 裏表紙
 に和文による解説あり 題簽「老子鈔註」の帙に収む

諸子鈔註

三冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*183*1

- 【葉数】 一冊目十葉 二冊目八葉 三冊目十二葉
 【外題】 内題「諸子鈔註」
 【内題】 外題なし
 【備考】 諸子鈔註の三 一冊目は『墨子』親土篇、法儀篇
 尚上篇上、兼愛篇中、非攻篇上の本文を引用し、和文小
 字で注を加う 二冊目は『世説新語』方正篇下を摘録し、
 和文小字双行で注を加う 欄外書き入れ(「E二」/甲一
 八五『世説新語補抄』の一部) 三冊目は原文を引用し
 和文で解説を加う 題簽「諸子鈔註」の帙に収む

南岳黄鵠黄坡三先生手抄五種叢書

五冊一帙 藤澤

南岳・黄鵠・黄坡

LH2*甲*199*1

- 【葉数】 一冊目四十六葉 二冊目十八葉 三冊目五十一葉
 四冊目六葉 五冊目七葉
 【外題】 一冊目内題・外題なし 二冊目内題「鷄窗餘筆」
 外題なし 三冊目内題「第一篇 上古史」 外題なし
 四冊目内題「唐詩選七律講義筆記」 外題なし 五冊目
 内題「育的心理学」 外題なし

【備考】 一冊目は王世貞「文章九命」の逸事題目を掲げ、そ

の出典等の考証を双行注で記す 「貧困」「嫌忌」「玷缺」
 「偃蹇」「流貶」「刑辱」「無終」「無後」に分類 精写本
 (南岳筆) 一冊目は内題「鷄窗餘筆」について「釋詁
 部」とあり、『瀛環志略』を抜粋(南岳筆) 三冊目は
 支那史で上古から漢初までを述べる(黄鵠筆) 四冊目
 は「唐詩選七律講義筆記」(黄坡筆) 五冊目は「教育
 的心理学」(黄坡筆) 朱筆・墨筆による書き入れ 題簽
 「南岳黄鵠黄坡三先生手抄五種叢書」の帙に収む

黄鵠起草

二冊 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*161*1

- 【葉数】 一冊目四十葉(墨付三十二葉) 二冊目二十七葉
 (墨付十三葉)
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題「黄鵠起草」
 【備考】 もとの表紙の書き付け外題に「起草」とあり 漢
 文及び和文 朱墨による書き入れ 題簽「黄鵠起草」の
 帙に収む

國民精神作興詔書ヲ拝ス

一冊 藤澤黄鵠著 藤澤黄

鵠筆

LH2*甲*162*

- 【葉数】 十九葉(墨付十五葉)
 【外題】 内題なし
 【内題】 外題なし
 【備考】 和文による草稿 前二葉半は南岳による「七香齋
 文雋目次」及び覚書 墨書による訂正多し 題簽「黄鵠
 起草」の帙に収む

戦史講話案 二冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

【葉数】 一冊目六十二葉（墨付五十九葉） 二冊目十六葉
（墨付十五葉） LH2*甲*191*1

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 一冊目の第一葉表に「大正四年十月十日 宇治川
戦史講話案」、第十七葉表に「神祖東征紀事」、二十九葉表
に「栗津原講話案」、三十七葉表に「山崎戦講話案」の書
き付けあり 第四十五葉のあと「明治四十二年六月十七
日 岸和田中學校談話會講話案」全十八頁（油印）、「三
月十日陸軍紀念日堺中學校二於ケル講話案」全七頁（油
印）、「明治二十八年二月二十八日 沙河沿戦闘略記 於
教軍場發信」全五頁（油印）を綴じ込む 二冊目は「大
阪府立岸和田中學校々友會原稿紙」の藍刷原稿用紙を用
い、第一葉冒頭に「於玉手山現地講話案」とあり すべ
て和文

戦術答案 一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*192*

【葉数】 三十五葉（墨付三十四葉）

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 黄坡の陸軍在籍時の戦術答案や軍事関連資料を合
綴したもの 朱筆・墨筆・鉛筆・赤鉛筆による書き入れ
多数

七香齋日録 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*140*

【葉数】 十七葉

【外題】 内題「七香齋日録」

【内題】 書き付け外題「七香齋日録」 明治二十五年六月

【備考】 明治三十一年十月 明治三十七年九月
漢文による日記 精写本 題簽「七香齋日録」の
帙に収む

泊園書院年譜 一冊 藤澤南岳・藤澤黄坡編 藤澤南岳・

藤澤黄坡筆

LH2*甲*149*

【葉数】 五葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「泊園書院年譜」

【備考】 朱墨による書き入れ 題簽「七香齋日録」の帙に
収む

七香齋日録 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*147*

【葉数】 二十一葉（墨付十七葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋日録」 明治二十九年六月

【備考】 漢文による日記 題簽「七香齋日録」の帙に収む

丁巳遊草（七香齋日録） 一冊 藤澤南岳録 藤澤

南岳筆

LH2*甲*148*

【葉数】 九葉

【外題】 内題「丁巳遊草」

【内題】 書き付け外題「七香齋日録」 丁巳遊草 大正六年

【備考】 五月
漢文による日記 題簽「七香齋日録」の帙に収む

藤澤南岳夫子文抄 一冊 越智宣哲編

LH2*甲*156*

【葉数】 九葉

【外題】 内題「藤澤南岳夫子文抄」、「同書牘抄」、「同詩抄」

【内題】 書き付け外題「藤澤南岳夫子文抄」

【備考】 精写本「正氣書院用紙」の藍刷原稿用紙を用う

朱点あり題簽「潤金社會稿 夫子近製鈔登載一覽」の

帙に収む

日課文章 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*121*

【葉数】 八葉

【外題】 内題「日課文章」

【内題】 書き付け外題「日課文章」

【備考】 句点 書き入れ多し「七香齋吟稿 三」の帙に

収む

酒九令 真珠九目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*129*

【葉数】 十二葉

【外題】 内題「酒九令」、「真珠九目」

【内題】 書き付け外題「酒九令 真珠九目」

【備考】 朱点 朱墨による書き入れ 題簽「七香齋雜纂」の

帙に収む

百喜集 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*128*

【葉数】 七葉

【外題】 内題「百喜集」

【内題】 書き付け外題「百喜集」

【備考】 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

草花異名 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*130*

【葉数】 七葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「草花異名」

【備考】 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

濯錦餘光 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*131*

【葉数】 十五葉

【外題】 内題「濯錦餘光草」、「濯錦餘光 七輯之一」、「仙詞

九體」

【内題】 書き付け外題「濯錦餘光」

【備考】 朱点 朱墨による書き入れ多し 題簽「七香齋雜

纂」の帙に収む

詞目 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*132*

【葉数】 三葉

【外題】 内題「詞目」

【内題】 書き付け外題「詞目」

【備考】 詞の題目を列挙する 朱筆による書き入れ 題簽

「七香齋雜纂」の帙に収む

七香齋雜纂 三冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*133*1

【葉数】 一冊目三十葉（墨付二十七葉） 二冊目四十一葉

三冊目十五葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「七香齋雜纂 一（二）（三）」

【備考】 南岳の未定稿十数種を合綴す 朱墨による書き入れ多し 題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

皇陵巡拝茱草稿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*127*

【葉数】 十葉(墨付九葉)

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 大正十一年刊『皇陵巡拝道の茱』の草稿 題簽「七香齋類函材料」の帙に収む

七香齋類函材料 五冊二帙 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*126*1

【葉数】 一冊目十六葉(墨付七葉) 二冊目二十四葉(墨

付二十一葉) 三冊目六葉 四冊目五十一葉(墨付五十

葉) 五冊目二十葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「警策」(一冊目)、「裸考」(二冊目)、

ナシ(三冊目)、「史徴一 日本書紀」(四冊目)、「史徴二

續日本紀」(五冊目)

【備考】 朱点 朱墨書き入れ 朱墨欄外書き入れ 題簽「七香齋類函材料」の帙に収む

七香齋日録 三冊一帙 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*145*1

【項数】 一冊目三百二十頁 二

【内題】 外題「明治四十二年懷中日記」(一冊目)、「大正貳

年懷中日記」(二冊目)、「大正三年懷中日記」(三冊目)

【備考】 漢文による日記 洋装本手帳 一冊目・三冊目は

博文館発行、二冊目は積善館発行 上下二段 墨筆・朱

筆により記入 南岳の他の日記に倣い、これらの日記も

「七香齋日録」と称しておく 題簽「七香齋日録」の帙に

収む

東袞夫子五十年祭計簿 一冊 藤澤南岳著 藤澤南

岳筆

LH2*甲*150*

【葉数】 五葉(墨付二葉)

【内題】 表紙に「大正二年四月六日 東袞夫子五十年祭計

簿 香翁手録」とあり 書き付け外題「東袞夫子五十年

祭計簿」

【備考】 横本 題簽「泊園三先生遺存」の帙に収む

南岳先生行状 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*151*

【葉数】 三葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「南岳先生行状」

【備考】 和文 朱墨による書き入れ 題簽「泊園三先生遺

存」の帙に収む

黄坡先生行状 二枚 石濱純太郎著 石濱純太郎筆

LH2*甲*152*

【葉数】 二枚

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「黄坡先生行状」

【備考】 和文 鉛筆書き 袋入り 昭和十一年四月三日開

催の黄坡華甲祝賀会に当たつての執筆であるう 題簽「泊

園三先生遺存」の帙に収む

泊園三先生遺存 一冊 藤澤南岳・黄鵠・黄坡著 藤澤南岳・黄鵠・黄坡筆

LH2*甲*153*

【葉数】 十葉(墨付九葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「泊園三先生遺存」

【備考】 「水天草廬日録」大正十一年一月・五月(黄鵠)、「阪本葵園祭文」(黄鵠) 明治二十六年十一月、「焚研社會稿」(黄坡) 明治三十四年四月、「辛丑四月文稿」(黄鵠) 明治三十四年四月、塾則(黄坡) 和文、「名實論之畧抄」(南岳) 懷徳堂における挨拶 和文 大正四年十月(を含む) 題簽「泊園三先生遺存」の帙に収む

逍遙遊吟社會稿 一冊 藤澤黄坡編 藤澤黄坡・逍遙遊吟社會員筆

LH2*甲*154*

【葉数】 十三葉

【外題】 内題「戊子七月會稿」

【内題】 書き付け外題「逍遙遊吟社會稿 昭和廿二年」

【備考】 扉に「戊子七月逍遙遊吟社會稿 臨時月幹 秀野英俊」とあり 会員による漢詩冊 朱筆・墨筆・緑筆による批語書き入れ多し 題簽「泊園三先生遺存」の帙に収む

黄鵠詩文稿 三冊一帙 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*160*1

【葉数】 一冊目五十七葉 二冊目八十六葉(墨付八十五葉)

三冊目五十六葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「黄鵠詩文稿 一(二)(三)」

【備考】 漢詩文 藤澤南岳朱筆書入本 朱点 句点 朱墨による批語多し 題簽「黄鵠詩文稿」の帙に収む

鷄窓日誌 一冊一帙 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*164*

【葉数】 八十三葉

【外題】 内題「鷄窓日誌」

【内題】 書き付け外題「鷄窓日誌」

【備考】 漢文による日記 明治二十二年十月一日から同二十六年一月三十一日まで 墨書による訂正多し 題簽「鷄窓日誌」の帙に収む

三山二水録 一冊一帙 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*163*

【葉数】 十七葉

【外題】 内題「三山二水録」

【内題】 外題「三山二水録」

【備考】 漢文による日記 精写本 明治三十五年一月一日から二月二十八日まで 欄外書き入れあり 題簽「三山二水録」の帙に収む

張尚瑗讀戰國策隨筆抄 一冊 藤澤黄鵠抄 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*171*

【葉数】 十九葉

【外題】 内題「張尚瑗讀戰國策隨筆抄」

【内題】 外題なし

【備考】 漢文 扉に「藤澤黄鵠 張尚環讀戰國策鈔」の書き付けあり 張尚環の『讀戰國策隨筆』から七十餘章にわたって抄録 墨書による書き入れ 欄外書き入れ 題簽「黄鵠手抄本」の帙に収む

醉古堂劔掃鈔譯 一冊 (明) 陸紹珩撰 藤澤黄鵠鈔譯

藤澤黄鵠筆

LH2*甲*172*

【葉数】 四十葉(墨付十九葉)

【外題】 内題「醉古堂劔掃鈔譯」

【内題】 外題なし

【備考】 和文 書き入れ 欄外書き入れ多し 題簽「黄鵠手抄本」の帙に収む

黄鵠掌記 一冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*167*

【葉数】 二十一葉

【外題】 内題なし

【内題】 外題「千字文」

【備考】 黄鵠少年時代の掌記 前四葉は『千字文』の「入奉母儀」以下、最後の「焉哉乎也」までを抄写す 裏表紙に「明治十八年一月調之 淡路町一丁目 藤澤元 所持之」とあり 墨書による書き入れ多し 題簽「黄鵠掌記」の帙に収む

字引 一冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*168*

【葉数】 三十七葉(墨付三十四葉)

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 「ア」から「ワン」、「ア」から「サン」までの音の漢字を列挙したもの 朱墨による書き入れあり 題簽「黄鵠掌記」の帙に収む

名字索引 一冊一帙 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*187*

【葉数】 七十一葉(墨付六十九葉)

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 漢字を一画から二十五画に分類し、その漢字を用いる漢語を列挙したもの 童幼のための字引か 送り仮名 振り仮名 書き入れ 題簽「名字索引」の帙に収む

古文奇賞 一冊 藤澤黄鵠編 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*170*

【葉数】 三十三葉(墨付十一葉)

【外題】 内題「古文奇賞」

【内題】 外題なし

【備考】 扉に「黄鵠抄 古文奇賞」の書き付けあり 句点 書き入れ 欄外書き入れ 題簽「黄鵠掌記」の帙に収む

黄鵠詩稿集 一冊 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*159*

【葉数】 二十三葉(墨付二十一葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「黄鵠詩稿集」

【備考】 漢詩集 扉に「明治十九年一月 藤澤元 詩稿集」の書き付けあり 明治十九年三月六日自序 第十三葉表に「明治丁亥廿年一月 藤澤元 詩集」 第二十一葉表 内題に「詩稿」とあり 朱点 句点 送り仮名 返点 行間・欄外とも朱墨による書き入れ多し 題簽「黄鵠詩稿集」の帙に収む

黄鵠起草 一冊 藤澤黄鵠著 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*158*

【葉数】 三十一葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「黄鵠 起草」

【備考】 訂正多し 題簽「黄鵠詩稿集」の帙に収む

天外浮槎日録 二冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*165*1

【葉数】 一冊目四十二葉（墨付三十六葉） 二冊目四十四

葉（墨付二十三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「天外浮槎日録」（一冊目）、「日録」

（二冊目）

【備考】 漢文による日記 一冊目は明治三十四年八月一日

から十二月二十七日まで 二冊目は明治三十五年一月一

日から四月二十二日までで「甲二ノ甲一六三」「三山二水

録」の草稿 墨書による訂正多し 題簽「天外浮槎日録」

の帙に収む

今文随筆 二冊 藤澤黄鵠編 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*166*1

【葉数】 一冊目四十六葉（墨付二十葉） 二冊目四十四葉

（墨付十五葉）

【外題】 内題「今文随筆」

【内題】 外題なし

【備考】 精写本 一冊目は「滙報序」「格致益聞匯報」等の

抄録 二冊目は曾國藩の文章の抄録を収む 朱点 句点

朱墨による書き入れあり 題簽「天外浮槎日録」の帙

に収む

排砂日録 二冊一帙 藤澤黄坡録 藤澤黄坡筆

LH2*甲*186*1

【葉数】 一冊目四十八葉（墨付二十四葉） 二冊目四十八

葉（墨付九葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「續排砂日録 一」（一冊目）

【備考】 漢文による日記 一冊目は大正十一年秋分序 大

正十一年九月二十四日から十二月十八日まで 二冊目は

大正十二年十二月一日から二十五日まで 墨書による訂

正あり 欄外書き込み 上海九華堂寶記製の日記を用う

題簽「排砂日録」の帙に収む

從吾好抄 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*179*

【葉数】 十一葉（墨付）八葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「從吾好抄」

【備考】 中国古典から格言・警句・熟語等を選んで墨書し、

朱筆で双行注を加える 表紙に「黄坡 西坡點」、「從吾

好抄 第一集」とあり 裏表紙中央下に「西坡」とあり

第八葉袋と同じ内に「論黨錮」に始まる短文の挟み物あ

り 題簽「大學註疏 黄坡抄」の帙に収む

世説新語補抄 二冊一帙 藤澤黄坡抄註 藤澤黄坡筆

LH2*甲*185*1

【葉数】 一冊目三十六葉 二冊目二十八葉

【外題】 内題「世説新語補抄」

【内題】 外題なし

【備考】 諸子鈔註の五 『世説新語補』 德行篇上下、言語篇上中下（以上、一冊目）、政事篇、文学篇上中下、方正篇上、德行篇（以上、二冊目）を摘録し、和文小字双行で注を加う 欄外書き入れ 『諸子鈔註』二冊目（LH21 / 甲一八三二）は本書の離れ 朱点 句点 返点 送り仮名 書き入れ 題簽「世説新語補」の帙に収む

論語講義 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*176*

【葉数】 五十三葉
【外題】 内題「論語講義」
【内題】 書き付け外題「論語講義」
【備考】 和文による講義原稿 ペン書き 赤・黒による書き入れ多し 題簽「論語講義 下」の帙に収む

論語講義 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*177*

【葉数】 五葉
【外題】 内題なし
【内題】 書き付け外題「論語講義」
【備考】 漢文 ペン書き 題簽「論語講義 下」の帙に収む

講話案 一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*190*

【葉数】 三葉
【外題】 内題なし
【内題】 外題なし
【備考】 和文 巻頭に「大正七年十一月一日 木村商店ニ於ケル講話案」「戊申詔書ノ一節」とあり 第二葉表の途中まで筆書き、続きはペン書き 墨書及びペンによる訂正あり 題簽「講話案・戊申詔書ヲ拜シテ」の帙に収む

萬葉集聽講摘録 一冊一帙 藤澤黄坡録 藤澤黄坡筆

LH2*甲*188*

【葉数】 十二葉
【外題】 内題なし
【内題】 外題なし
【備考】 横小本 和文 扉に「明治丙申 萬葉集聽講摘録 黄坡」とあり 題簽「萬葉集聽講摘録」の帙に収む

國語漢文教授法大意 一冊一帙 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*189*

【葉数】 八葉
【外題】 内題「國語漢文教授法大意」「教案」
【内題】 外題なし
【備考】 和文 巻末に「教案」を付す 書き入れ 欄外書き入れ 題簽「國語漢文教授法大意」の帙に収む

諸子考証 一冊一帙 藤澤黄坡編 藤澤黄坡筆

LH2*甲*184*

【葉数】 九十五葉（墨付六十五葉）
【外題】 内題なし
【内題】 書き題簽「諸子考証 全」
【備考】 諸子鈔註の四 「子類聞見録」（服部宇之吉口授 藤澤黄坡録 和文）、「墨子」（語釈 漢文）、「老子」（解説 和文）、「老子辯ヲ弁ズ」（島田博士 和文）、「老子辨」は齊藤拙堂著）、「随聞隨筆」（覚書 漢文）よりなる 題簽「諸子考証」の帙に収む

日本百人一詩 百八十八枚一函 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*193*

LH2*甲*197*

- 【葉数】 百八十八枚
 【外題】 内題なし
 【内題】 外題なし
 【備考】 未装丁 邦人の漢詩百首を選び和文で解説したもののペン書き 昭和十八年稿 大阪朝日新聞連載のころ
 ム「日本百人一詩」の原稿である 朝日新聞の当該記事所々に貼り付け 題簽「日本百人一詩」の函に収む

- 【葉数】 四葉
 【外題】 内題「漢文を學べ」
 【内題】 書き付け外題「漢文を學べ」
 【備考】 和文 ペン書き 「泊園」原稿用紙を用う 泊園書院『泊園』第二十二号（昭和十一年七月五日）の巻頭論説「漢文を學べ」の原稿 朱筆・ペンによる書き入れあり 題簽「大壺文篇」の帙に収む

浪華儒林傳雜考

一冊 石濱純太郎著 石濱純太郎筆

LH2*甲*195*

泊園先賢資料索引稿

一冊一帙（ノートブック） 石濱純太郎著 石濱純太郎筆

LH2*甲*198*

- 【葉数】 六葉
 【外題】 内題「浪華儒林傳雜考（一）」
 【内題】 書き付け外題「浪華儒林傳雜考」
 【備考】 和文 ペン書き 「泊園」原稿用紙を用う 泊園書院『泊園』第二十二号（昭和十一年七月五日）掲載
 「浪華儒林傳雜考（一）」の原稿 朱筆・ペンによる書き入れあり 題簽「大壺文篇」の帙に収む 大壺は石濱の号

- 【項数】 五十八頁（書入れ十四）
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題「中山 城山鼈山先生 詩存」
 【備考】 中山城山・鼈山ら讃岐関連の儒者に関する資料メモ ペン書き 題簽「泊園先賢資料索引稿」の帙に収む

讀書隨筆

一冊 石濱純太郎著 石濱純太郎筆

LH2*甲*196*

名數

LH2*甲*169*

- 【葉数】 六葉
 【外題】 内題「讀書隨筆」
 【内題】 書き付け外題「讀書隨筆」
 【備考】 和文 ペン書き 「泊園」原稿用紙を用う 泊園書院『泊園』第二十二号（昭和十一年七月五日）掲載
 「讀書隨筆」の原稿 朱筆・ペンによる書き入れあり 題簽「大壺文篇」の帙に収む

- 【葉数】 十七葉
 【外題】 内題なし
 【内題】 外題なし
 【備考】 「参(三)」から「九」に始まる漢語を列挙したものの南岳による補筆あり 墨書による訂正あり 題簽「黄鵠掌記」の帙に収む

漢文を學べ

一冊 石濱純太郎著 石濱純太郎筆

- 【葉数】 十一葉
 【外題】 内題「夫子近製鈔登載一覽」

LH2*甲*155*

夫子近製鈔登載一覽 一冊 藤澤黄鵠編 藤澤黄鵠筆

【内題】 書き付け外題「夫子近製鈔登載一覽」
【備考】 藤澤南岳による欄外朱批あり 題簽「潤金社會稿
夫子近製鈔登載一覽」の帙に収む

浪華名家碑文集 一冊 藤澤南岳著 藤澤南岳筆

LH2*甲*134*

【葉数】 九十九葉
【外題】 内題なし
【内題】 書き付け外題「浪華名家碑文集」
【備考】 大阪に残る碑文を広く集録する 書き入れあり
題簽「七香齋雜纂」の帙に収む

大學註疏 一冊 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*180*

【葉数】 二十五葉（墨付二十一葉）
【外題】 内題「大學」
【内題】 書き付け外題「大學註疏 全」
【備考】 朱点 欄眉の注多し 題簽「大學註疏 黄坡抄」の
帙に収む

日本百人一詩 一包 藤澤黄坡著 藤澤黄坡筆

LH2*甲*194*

【葉数】 新聞切り抜き二十枚 罫紙十枚
【外題】 内題なし
【内題】 外題なし
【備考】 大阪朝日新聞掲載のコラム「日本百人一詩」記事
罫紙には関連漢詩、陶淵明「歸去來の辞」、自作の漢詩
などを赤色ペン及び墨書で記す 題簽「日本百人一詩」
の函に収む

軸「有心堂」 一幅一箱 藤澤東袞書

【備考】 横幅 七二×二九・五センチ 藤澤黄坡による箱
書に「東袞王父真蹟有心堂横幅」とあり 蓋裏に黄坡の
識語、「寄贈 三崎シズ殿 関西大学図書館」のラベルあ
り「文字」「有心堂 藤澤甫」

LH2*甲*201*

【備考】 五七×二二九センチ 箱書なし「文字」「雨過前林
又後林 琉璃洗出幾重陰 世人只道春風好 綠意深於紅
意深／新緑 藤澤甫」

軸「新緑」七言絶句 一幅一箱 藤澤東袞書

LH2*甲*202*

【備考】 軸裏に「藤澤王父自壽父解嘲扇面」とあり（黄坡
筆力） 東袞扇面は四六×一四・五、南岳扇面は五二・
五×一四・五 木製の筒に入り、その表書に「王父大人
扇面」とあり「文字」「文史元非金馬才 且應人世作俳詠
幸因去住從王母 偷得春桃六十回／自壽 有家母在故
云／藤澤甫」（上面） 「放吟不求和 只伴蕉雨敲 此
心與遠肖 也應息遊戈 子雲何把玄 經筆却爲世人著解
嘲／南岳」（下面）

扇面二種 一幅一箱 藤澤東袞・南岳書

LH2*甲*203*

軸「題畫」七言絶句 一幅一箱 藤澤南岳書

LH2*甲*204*

【備考】 三四・五×二七センチ 挟み物小片に「南岳先
生 詩 山徑快雨」とあり 箱書に「藤澤東袞先生筆」、
蓋裏に「明治十三年三月書之 石田所有」とあり「寄贈

三崎シズ殿 関西大学図書館「のラベルあり〔文字〕
「山徑快雨綿如油 老桜千重夏気幽 湾水剩侘空豁思
短篷紹棹釣魚舟／題畫 七十二翁南岳」

軸「力行可以貫萬年」七言詩 一幅一箱 藤澤南岳書

LH2*甲*205*

【備考】 南岳が他詩に次韻し、子の元(黄鵠)、章(黄坡)、
麟(三崎麟之助)に示したもので二七・五×九二センチ

軸裏に「六十二歳 藤大人似元章麟 豊韻」とあり

箱書なし〔文字〕「力行可以貫萬年 勿以斯文委了然 祖
考嘉績存眼前 聖哲法言亦將干 脩身授汝維七篇 愆惠
招實在自賢 不蹈弄花淫酒筵 敦厚應護九仙 揖讓果能
握真權 一家景福竟無邊／豊韵似元章麟 七香齋主人

不苟書室日録 甲部 十冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*206*1

【葉数】 一冊目二十九葉(墨付二十一葉) 二冊目三十一

葉(墨付九葉) 三冊目四十一葉(墨付三十九葉)

四冊目四十五葉(墨付三十六葉) 五冊目四十六葉(墨

付二十八葉) 六冊目四十六葉(墨付四十四葉)

【外題】 内題「不苟書室日録 甲部」

【内題】 書き付け外題「不苟書室日録 甲 一(一)(三)

(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)」

【備考】 漢文による日記 精写本一冊目 巻首に「日録小
引」あり、日記冒頭に「不苟書室日録卷一 甲部」とあ

り、明治八年四月一日から二十日まで二冊目 明治九年
五月二十九日から七月十七日まで三冊目 明治九年九月
一日から同十年四月三十日まで四冊目 明治十年五月一

日から十二月二十日まで五冊目 明治十一年一月一日か
ら五月三十一日まで六冊目 明治十一年六月一日から十
二月三十一日まで七冊目 明治十二年一月一日から五月
三十一日まで八冊目 明治十二年六月一日から十月二十
二日まで九冊目 明治十三年一月

不苟書室日録 乙部 七冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*207*1

【葉数】 一冊目四十四葉 二冊目四十葉 三冊目四十八葉
(墨付四十四葉) 四冊目四十七葉(墨付四十二葉)

五冊目十八葉(墨付十七葉) 六冊目四十七葉(墨付二

十葉) 七冊目五十五葉(墨付二十七葉)

【外題】 内題「不苟書室日録 乙部」

【内題】 書き付け外題「不苟書室日録 乙 一(一)(三)

(五)(六)(七)(八)」

【備考】 漢文による日記 巻四を欠く 精写本一冊目 巻
首に「不苟書室日録卷之一 乙部」とあり、明治十四年
一月一日から五月三十一日まで二冊目 巻首に「不苟書
室日録卷之二」とあり、明治十四年六月一日から十二月
三十一日まで三冊目 巻首に「不苟書室日録卷之三」と
あり、明治十五年一月一日から六月三十日まで四冊目
巻首に「不苟書室日録卷之五」とあり、明治十五年十月
一日から同十六年六月三十日まで五冊目 巻首に「不苟
書室日録卷之六」とあり、明治十六年七月一日から十月
六日まで六冊目 巻首に「不苟書室日録卷之七

七香齋日録 丙・丁・戊 三冊 藤澤南岳録 藤澤南

岳筆

LH2*甲*208*3

【葉数】 一冊目三十一葉（墨付二十五葉） 二冊目二十九

葉 三冊目十二葉（墨付十一葉）

【外題】 内題「七香齋日録 丙（丁）（戊）」

【内題】 書き付け外題「七香齋日録 丙（丁）（戊）」

【備考】 漢文による日記 精写本一冊目 巻首に「七香齋

日録 丙」とあり、明治二十四年十月十一日から十二月

三十一日まで二冊目 巻首に「七香齋日録 丁」とあり、

明治二十五年一月一日から五月三十一日まで三冊目 巻

首に「七香齋日録 戊」とあり、明治二十六年一月一日か

ら三月十一日まで墨筆による欄外書き入れあり 舛なし

七香齋日録

一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*209*

【葉数】 五十六葉（墨付二十九葉）

【外題】 内題「七香病日録 一」

【内題】 書き付け外題「七香齋日録 一」

【備考】 漢文による日記 精写本巻首に「七香齋日録巻之

一」とあり、明治二十六年九月一日から十二月三十一日

まで第二十五葉冒頭に「七香齋日録巻之二」とあり、明

治二十七年一月一日から二十二日まで末尾二葉に「備忘

手録」を附す 墨筆による欄外書き入れ 舛なし

七香齋日録

戊 五冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*210*1

【葉数】 一冊目七十三葉（墨付三十八葉） 二冊目五十二

葉（墨付五十葉） 三冊目五十五葉 四冊目三十九葉

（墨付二十八葉） 五冊目五十八葉（墨付二十九葉）

【外題】 内題「七香齋日録」

【内題】 書き付け外題「七香齋日録 一（二）（三）（四）

（五）」

【備考】 漢文による日記 精写本一冊目 外題に「七香齋

日録 戊一」、巻首に「七香齋日録」とあり、明治二十七

年十二月二十二日から同二十八年十月二十五日まで、末

尾に友人・門人の名を記す二冊目 外題に「七香齋日録

二」とあり、明治二十八年十一月一日から同二十九年

八月三十一日まで三冊目 外題に「七香齋日録 三」と

あり、明治二十九年九月一日から同三十年三月三十一日

まで四冊目 外題に「七香齋日録 四」とあり、明治三

十年四月一日から八月三十一日まで五冊目 外題に「七

香齋日録 五」とあり、明治三十年九月一日から

七香齋日録

一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*212*1

【葉数】 六十八葉（墨付二十五葉）

【外題】 内題「七香齋日録」

【内題】 書き付け外題「七香齋日録」

【備考】 漢文による日記 精写本巻頭に「七香齋日録巻之

一」とあり、明治三十九年九月一日から十一月十一日ま

で第十五葉は短文「考古雜徴」、第十六葉から第二十六

葉までは学者文人の没年を記した覚書で、宝永より大正

まであり

不苟書室日録

十冊 藤澤南岳録 藤澤黄鶴筆

LH2*甲*214*1

【葉数】 一冊目五十四葉 二冊目三十八葉 三冊目八十四

葉 四冊目二十六葉 五冊目七十一葉 六冊目五十二葉

七冊目七十一葉 八冊目三十二葉 九冊目百二十一葉
十冊目六十八葉

【外題】 内題「不苟書室日録」

【内題】 書き付け外題「日録」一(一)(二)(三)(四)(五)(六)

(七)(八)(九)(十)

【備考】 漢文による日記 精写本一冊目 表紙に「日録

起明治八年 迄十四年 一」とあり二冊目 表紙に「日

録 起十五年 迄十七年 二」とあり三冊目 表紙に「日

録 起二十四年 迄二十九年 三」とあり四冊目 表紙

に「日録 明治三十年 四」とあり五冊目 表紙に「日

録 起三十三年 迄三十四年 五」とあり六冊目 表紙

に「日録 起三十四年 迄三十五年 六」とあり七冊目

表紙に「日録 起三十五年 七」とあり八冊目 表紙

に「日録 起四十年 迄四十一年 八」とあり九冊目

表紙に「日録 起四十二年 迄

日録

一綴 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*216*

【葉数】 十五葉(墨付六葉)

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 仮綴じ 南岳による漢文日記の草稿 五月二十一

日から六月二日まで 帙なし

日録

一綴 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*217*

【葉数】 七葉(墨付五葉)

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし

【備考】 仮綴じ 南岳による日記の草稿 漢文 十月二十

七日から三十一日まで 十月一日から六日まで ついで

人名の覚書あり 帙なし

七香齋日程 庚・辛 十八冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*218*

【葉数】 一冊目五十二葉 二冊目五十八葉 三冊目六十八

葉(墨付四十一葉) 四冊目九十三葉(墨付五十葉)

五冊目五十五葉(墨付三十七葉) 六冊目四十八葉 七

冊目八十一葉(墨付七十七葉) 八冊目六十八葉(墨

【外題】 内題「七香齋日程 庚」

【内題】 書き付け外題「七香齋日程」一(一)(二)(三)(四)

(五)(六)(七)(八)(九)(十)(十一)(十二)(十三)

(十四)(十五)(十六)(十七)(十八)

【備考】 漢文による日記 精写本一冊目 外題に「七香齋

日程 一」とあり、巻首に「七香齋日程卷一 庚 南岳手

録」(南岳手録の話は以下、同じ)、明治四十一年一月一

日冒頭に「七香齋日程卷二」とあり、明治四十年九月八

日から同四十一年三月三十一日まで二冊目 外題に「七

香齋日程 二」、巻首に「七香齋日程卷三」とあり、明治

四十一年四月一日から十二月三十一日まで三冊目 外題

に「七香齋日程 三」、巻首に「七香齋日程卷四」、己酉

六月一日冒頭に「七香齋日程卷五」とあり、明治四十二

年一月一日から七月十日まで四冊目 外題に「

文庫書目稿

一冊 藤澤南岳等録 藤澤南岳等筆

LH2*甲*219*

【項数】 九十八頁(墨付八十五

【外題】 内題なし
【内題】 書き付け外題「文庫書目稿」
【備考】 装訂は洋装 泊園書院所蔵の書籍を五十音順に列挙し、甲から癸の十類に分類したうえで冊数と整理番号を記す 朱筆・墨筆・鉛筆書きによる書き入れ多し 帙なし

泊園藏書目録 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*220*

【項数】 二百十頁（墨付四十四）
【外題】 内題なし
【内題】 書き付け外題「泊園藏書目録」
【備考】 装訂は洋装 泊園書院所蔵の書籍を甲から癸の十類に分類したうえで冊数を附す 「朱公文文集」から「文文山集」に至る書目の挟み物二枚あり 裏表紙に「七香齋手録」の書き付け 帙なし

泊園圖書目録 付物夫子著述書目補記 一冊 編

者・抄写者未詳

LH2*甲*221*

【葉数】 四十五葉
【外題】 内題なし
【内題】 外題「泊園圖書目録」
【備考】 泊園書院所蔵と思われる書籍の詳しい目録 「物夫子著述書目補記」（四葉）は宇恵（宇佐美膺水）著 帙なし

泊園藏書目録 一冊 編者・抄写者未詳

LH2*甲*222*

【葉数】 二十七葉

【外題】 内題なし
【内題】 書き付け外題「泊園藏書目録」
【備考】 横本 泊園書院所蔵の書籍目録 表紙に「明治己丑校」とあり 甲から壬までの九類に分かつ 朱墨による書き入れ多し 帙なし

大正元年晩夏新調書匣一覽 一冊 編者・抄写者未詳

LH2*甲*223*

【葉数】 三十九葉（墨付二十八葉）
【外題】 内題「大正元年晩夏新調書匣一覽」
【内題】 外題なし
【備考】 横小本 甲から壬に分かち書名と冊数を記す 表紙に「此帳簿附込期限 明治 年 月ヨリ 明治 年 月マデ 満年 紙頁小口 葉」とあり 朱墨による書き入れあり 帙なし

泊園藏書目録 一冊 編者・抄写者未詳

LH2*甲*224*

【葉数】 二十六葉
【外題】 内題なし
【内題】 書き付け外題「泊園藏書目録」
【備考】 横本 泊園書院所蔵の書籍目録 表紙に「明治己丑校」とあり 甲から癸までの十類に分かつ 裏表紙にも墨付き 朱墨による書き入れ多し 帙なし

七香齋日録 己 十冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*211*1

【葉数】 一冊目七十三葉（墨付三十八葉） 一冊目五十二葉（墨付五十葉） 三冊目五十五葉 四冊目三十九葉（墨付三十八葉） 五冊目五十八葉（墨付二十九葉） 六冊目三十八葉（墨付三十六葉） 七冊目四十二葉

【外題】 内題「七香齋日録 己號」

【内題】 書き付け外題「七香齋日録 一 己(二)(三)(四)

(五)(六)(七)(八)(九)(十)」

【備考】 漢文による日記 精写本一冊目 外題に「七香齋

日録 一己」、巻首に「七香齋日録卷一 己號」とあり、

明治三十三年八月二十五日から十月三十一日まで二冊目

外題に「七香齋日録 一」、巻首に「七香齋日録卷一」、

明治三十四年二月一日冒頭に「七香齋日録卷二」とあり、

明治三十三年十一月一日から同三十四年三月三十一日まで

二冊目 外題に「七香齋日録 三」、巻首に「七香齋日

録卷四」とあり、明治三十四年四月一日から八月七日ま

で四冊目 外題に「七香齋日録 四」、巻首に「七香齋日

録卷五」とあり、明治三十四年八月八日から

不苟書室日録 乙部

七冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*甲*207*1

【葉数】 一冊目四十四葉 二冊目四十葉 三冊目四十八葉

(墨付四十四葉) 四冊目四十七葉(墨付四十二葉)

五冊目十八葉(墨付十七葉) 六冊目四十七葉(墨付二

十葉) 七冊目五十五葉(墨付二十七葉)

【外題】 内題「不苟書室日録 乙部」

【内題】 書き付け外題「不苟書室日録 乙 一(一)(三)

(五)(六)(七)(八)」

【備考】 漢文による日記 巻四を欠く 精写本一冊目 巻

首に「不苟書室日録卷之一 乙部」とあり、明治十四年

一月一日から五月三十一日まで二冊目 巻首に「不苟書

室日録卷之二」とあり、明治十四年六月一日から十二月

三十一日まで三冊目 巻首に「不苟書室日録卷之三」と

あり、明治十五年一月一日から六月三十日まで四冊目

巻首に「不苟書室日録卷之五」とあり、明治十五年十月

一日から同十六年六月三十日まで五冊目 巻首に「不苟

書室日録卷之六」とあり、明治十六年七月一日から十月

六日まで六冊目 巻首に「不苟書室日録卷之七」とあり、

明治十七年一月一日から五月二十二日まで七冊目 巻首

に「不苟書室日録卷之八」とあり、明治十七年七月一日

から同十八年二月十五日まで墨筆による欄外書き入れあ

り 帙なし

七香齋日録

乙部 附年中行事稿本 一冊 藤澤南岳録

藤澤南岳筆

LH2*甲*213*1

【葉数】 七香齋日録二十葉 年中行事稿本三十九葉(墨付

二十八葉)

【内題】 内題「七香齋日録」「年中行事稿本」

【備考】 漢文による日記 精写本巻首に「七香齋日録卷一

乙部」とあり、明治四十年二月五日から四月十六日ま

で記す 後半が「年中行事稿本」 帙なし

日録

一冊 藤澤黄鵠録 藤澤黄鵠筆

LH2*甲*215*

【葉数】 六十二葉(墨付三十六葉)

【内題】 内題なし

【備考】 漢文による日記大正八年一月一日から八月十二日

まで 墨筆による訂正あり 冒頭に油印の「西藏学会入

会申込書」を挟む 西藏学会は石濱純太郎が昭和二十八

年に設立 帙なし

丙部

文章廻瀾 懷徳堂叢書 一冊一帙 五井蘭洲編

LH2*丙*1*

【葉数】 二十四葉

【外題】 内題「文章廻瀾」

【内題】 書き付け外題「文章廻瀾」

【備考】 大和綴じ 第二十二葉冒頭に「辨滄浪詩話 附録」とあり 欄外書き入れ多し 題簽「文章廻瀾」の帙に収む

典謨接 一冊 中井履軒著

LH2*丙*2*

【葉数】 七葉

【外題】 内題「典謨接」

【内題】 書き付け外題「典謨接 完」

【備考】 大和綴じ 『尚書』堯典・皋陶謨の解説 『尚書』

本文を朱筆で記す 欄外書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

東征稿・西上記 懷徳堂叢書 一冊 中井竹山著

LH2*丙*3*

【葉数】 四十三葉

【外題】 内題「東征稿」「西上記」

【内題】 書き題簽「東征稿 西上記」

【備考】 精写本 四つ目綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラ

ベルに「甲 書目 東征稿 西上記 冊数 一」とあり 安永二年南宮岳序、同年渋谷孝徳跋 朱点あり 欄眉に書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

西岡集 懷徳堂叢書 一冊 中井竹山著

LH2*丙*4*

【葉数】 二十七葉

【外題】 内題「西岡集」

【内題】 書き題簽「西岡集 全」

【備考】 精写本 大和綴じ 朱点 朱筆・墨筆による欄眉

書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

社倉私議 懷徳堂叢書 一冊 中井竹山撰

LH2*丙*5*

【葉数】 二十七葉

【外題】 内題「社倉私議」

【内題】 書き付け外題「社倉私議 全」

【備考】 和文 大和綴じ 第二十二葉より「附録」 文末

に「寛政甲寅仲冬 竹山居士識」とあり 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

孟子逢原抄録 一冊 中井竹山撰

LH2*丙*6*

【葉数】 三十七葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「孟子逢原抄録 缺後半部」

【備考】 大和綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「戊

書目 孟子逢原抄録 冊数 一」とあり 朱筆による欄外書き入れ少しあり 大正二年の大城戸宗重識語あり、「黄鵠兄に贈る」と記す 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

中庸 懷徳堂叢書 一冊 中井髯庵・五井蘭洲・中井竹山

等注

LH2*丙*7*

【葉数】 四十八葉

【内題】 書き付け外題「中庸 全」

【備考】 精写本 大和綴じ 旧注および蘭洲・髡庵・竹山らの説を併せ記す 欄外書き入れあり 裏表紙右下に「求仁堂藏本」と墨書す 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

平洲紀先生感懐詩 懷徳堂叢書 一冊 細井平洲撰

中井竹山批評

LH2*丙*8*

【葉数】 八葉

【外題】 内題「平洲紀先生感懐詩」

【内題】 書き付け外題「平洲先生感懐詩」

【備考】 大和綴じ 表紙に「竹山居士批評」「松篁軒藏」と墨書す 「細井平洲先生舊里碑」を双行注で附録す 文政戊子の神林世猷識語、己酉年の竹山識語あり 朱筆・墨筆による欄外書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

中庸 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒校

LH2*丙*9*

【葉数】 十二葉

【外題】 内題「中庸」

【内題】 外題なし

【備考】 精写本 大和綴じ 内題の下に「水哉館定本」とあり 『中庸』本文を二十七章に分かつ句点 欄外書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

大學錯問 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒撰

LH2*丙*10*

【葉数】 三葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「水哉館 大學錯問」

【備考】 精写本 大和綴じ 朱筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

世説 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒編

LH2*丙*11*

【葉数】 九十三葉

【外題】 内題「世説」

【内題】 書き付け外題「水哉館世説頭書 全」

【備考】 大和綴じ 朱筆・墨筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

莊子雕題 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒撰

LH2*丙*12*

【葉数】 五十八葉

【外題】 内題「莊子雕題」

【備考】 大和綴じ 書き付け外題に「莊子雕題 内篇」とあるも、「莊子雕題 外篇」を附す 朱筆・墨筆による書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

利政雜議 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒撰

LH2*丙*13*

【葉数】 十葉

【外題】 内題「利政雜議」

【内題】 書き付け外題「利政雜議」

【備考】 大和綴じ 「擬諭」の文を附す 墨筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

傳疑小史 懷徳堂叢書 一冊一帙 中井履軒撰

LH2*丙*14*

【葉数】 十七葉

【外題】 内題「傳疑小史」
【内題】 書き付け外題「傳疑小史」
【備考】 大和綴じ 精写本 卷末に「文化紀元九日 幽人
識」「文政丁亥孟春 北岳子校定」とあり 句点 題簽
「傳疑小史」の帙に収む

履軒古韻 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒著

LH2*内*15*

【葉数】 四十六葉
【外題】 内題「履軒古韻」
【内題】 書き付け外題「幽人先生古韻 完」
【備考】 四つ目綴じ 明和庚寅孟春の履軒幽人序あり 表
紙貼付「泊園文庫」のラベルに「辛 書目 幽人先生古韻
冊数一」とあり 朱筆・墨筆による書き入れ 題簽
「懷徳堂叢書 三」の帙に収む

履軒古韻 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒著

LH2*内*16*

【葉数】 三十二葉
【外題】 内題「履軒古韻」
【内題】 書き付け外題「履軒古韻」
【備考】 四つ目綴じ 明和庚寅孟春の履軒幽人序あり 朱
筆・墨筆による書き入れ 題簽「懷徳堂叢書 三」の帙
に収む

履軒古韻 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒著

LH2*内*17*

【葉数】 三十二葉
【外題】 内題「履軒古韻」
【内題】 書き付け外題「履軒古韻 全」

【備考】 精写本 四つ目綴じ 明和庚寅孟春の履軒幽人序
あり 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「辛 第三六號
書目 履軒古韻 函号五 冊数一」とあり 表紙裏面の
右下隅に南岳の字で「叢書之一」とあり 朱筆・墨筆に
よる書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 三」の帙に収む

九歎 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒撰

LH2*内*18*

【葉数】 三葉
【外題】 内題「九歎」
【内題】 書き付け外題「履軒先生九歎 全」
【備考】 大和綴じ 題簽「懷徳堂叢書 三」の帙に収む

北窓雜記 懷徳堂叢書 一冊 著者未詳

LH2*内*19*

【葉数】 六十四葉（墨付四十八葉）
【外題】 内題なし
【内題】 書き付け外題「備忘 北窓雜記」
【備考】 四つ目綴じ 卷首下部に「損哉樓主」と墨書す
和文で書かれた部分あり 「懷徳堂」の用箋を用う 朱
墨による書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 四」の帙に
収む

升堂記聞 孟子 懷徳堂叢書 一冊 並河天民講義 並

河機息記聞

LH2*内*20*

【葉数】 三十二葉
【外題】 内題「孟子」
【内題】 書き付け外題「升堂記聞 孟子」

【備考】 大和綴じ 書き付け外題の下に「天民先生講義」
「機息先生記聞」とあり 「懷徳堂」の用箋を用う 朱
筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 四」の帙に
収む

溟翁先生諸説 懷徳堂叢書 一冊 中井竹山撰

LH2*丙*21*

【葉数】 二十三葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「溟翁先生諸説」

【備考】 和文 大和綴じ 「答小西純達書」「答丸川千秋問
目」「答股野嘉善」「答谷生論主一無適」「答松藩谷某」を
含む 題簽「懷徳堂叢書 四」の帙に収む

履軒先生説 懷徳堂叢書 一冊 中井履軒撰

LH2*丙*22*

【葉数】 六十四葉（墨付六十二葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「履軒先生説」

【備考】 大和綴じ 卷末の「答官良佐」のみ和文 第三十
葉から第四十一葉まで「艸雲廬」の用箋を用う 第四十
四葉から第四十八葉まで「揚善社」の用箋を用う 朱筆・
墨筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 四」の帙
に収む

懷徳堂諸先生逸詩 懷徳堂叢書 一冊一帙 三宅石庵・
五井蘭洲・中井竹山等撰

LH2*丙*23*

【葉数】 十二葉

【外題】 内題「懷徳堂諸先生逸詩」

【内題】 書き付け外題「懷徳詩 全」
【備考】 大和綴じ 一部に和歌あり 朱墨による書き入れ
墨筆による欄外書き入れあり 題簽「懷徳堂諸先生逸
詩」の帙に収む

弊帚季編 懷徳堂叢書 一冊一帙 中井履軒撰

LH2*丙*24*

【葉数】 二十五葉

【外題】 内題「弊帚季編」

【内題】 書き題簽「弊帚季編 上下 全」

【備考】 四つ目綴じ 文化丁卯夏序 朱点 朱筆による書
き入れ多し 題簽「弊帚季編」の帙に収む

履軒古風 懷徳堂叢書 一冊一帙 中井履軒撰

LH2*丙*25*

【葉数】 三十九葉

【外題】 内題「履軒古風」

【内題】 外題なし

【備考】 精写本 四つ目綴じ 三巻に分かつ 墨筆による
欄外書き入れあり 第二十八葉に「先生手書与寫本有同
異」として附箋を貼りつける 題簽「履軒古風」の帙に
収む

尚書 一冊一帙 中井履軒等注

LH2*丙*26*

【葉数】 三十九葉

【外題】 内題「書」

【内題】 書き付け外題「尚書 帆新註」

【備考】 四つ目綴じ 卷一のみ 堯典より皋陶謨まで 旧
註・蔡沈註・履軒註・万里註を併記す 朱点 朱筆・墨
筆による訂正あり 題簽「尚書」の帙に収む

慶長元和両度大阪役圖 一枚

LH2*丙*27*

【外題】 内題なし

【内題】 紙袋の書き付け外題「慶長元和両度大阪役圖」

【備考】 八〇・六×一二〇センチの筆彩写図 書き付け外

題の右に「懷徳書院教授並河寒泉遺書」とあり 「伏見
稻荷大社」の紙袋に折り畳んで収む

周易 坤屯 一冊 満生大麓述

LH2*丙*28*

【葉数】 八葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大麓先生代紳録 周易 坤屯」

【備考】 大和綴じ 和文 欄外書き入れあり 題簽「満生
大麓先生代紳録 周易」の帙に収む

周易 自下経至序卦 一冊 満生大麓述

LH2*丙*29*

【葉数】 六十二葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「周易 自下経至序卦」

【備考】 大和綴じ 和文 墨筆・朱筆による書き入れあり
巻末に「天明元年仲秋上旬」とあり 題簽「満生大麓
先生代紳録 周易」の帙に収む

周易 上繫辭 下繫辭 説卦 序卦 雜卦 一冊 満

生大麓述

LH2*丙*30*

【葉数】 五十九葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「周易 上繫辭 下繫辭 説卦 序卦
雜卦」

【備考】

大和綴じ 和文 欄外書き入れあり 巻末識語に

「于時天明二年壬寅之歲十二月中旬 之於浪華僑居右者

大麓先生代紳録也云爾」とあり 題簽「周易 満生大

麓先生代紳録」の帙に収む

論語代紳録 一冊一帙 齋宮静齋述

LH2*丙*31*

【葉数】 九十八葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「論語代紳録」

【備考】 大和綴じ 和文 學而第一より郷黨第十まで 墨

筆による欄外書き入れあり 表紙書き付け外題の右に「豫
州松山田那邊軒仲修思室者軒仲之所宅而先生所賜之稱也

此者静齋先生所講而田那邊軒仲之代紳録也」「于時天明

三年癸卯之春三月摸之於修思室也」と書き付け 第二十

七葉裏と第二十八葉表の間に紙片の挟みものあり、「右八

静齋先生豫州松山伴奂亭ニライテ講シ終ル焉 蒙園藏」

と墨書す 題簽「論語代紳録 齋宮静齋」の帙に収む

周易 上經 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*32*

【葉数】 三十五葉

【外題】 内題「周易」

【内題】 書き題簽「周易 上經」

【備考】 四つ目綴じ 乾卦より離卦まで 青筆による句点

墨筆・朱筆による書き入れあり 題簽「周易 矢口録

一」の帙に収む

周易 上繫辭傳 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*33*

【葉數】 四十八葉

【外題】 内題「周易上繫辭傳」

【内題】 書き付け外題「矢口録 周易上繫辭」

【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れ 題簽「周易 矢口録 一」の帙に収む

周易 繫辭傳 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*34*

【葉數】 四十八葉

【外題】 内題「周易繫辭傳」

【内題】 書き付け外題「矢口録 周易上繫辭下繫辭」

【備考】 四つ目綴じ 繫辭上傳の一部と繫辭下伝の前半部を釈す 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れ 題簽「周易 矢口録 二」の帙に収む

を釈す 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れ 題簽「周易 矢口録 二」の帙に収む

周易 下繫辭 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*35*

【葉數】 四十八葉（墨付三十九葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「矢口録 周易下繫辭」

【備考】 四つ目綴じ 丙三四に続いて繫辭下伝を釈す 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れ 第三十

一葉裏と第三十三葉表の間に挟みもの一冊（三葉）あり、表紙に「易繫辭」と書き付け、巻頭・巻尾に「佐翼」印、裏表紙に「泊園文庫」印 第三十四葉以降は「自銘于座右」と題する格言および覚書 題簽「周易 矢口録 一」の帙に収む

尚書 典謨前解 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*36*

【葉數】 三十葉

【外題】 内題「尚書」

【内題】 書き題簽「静齋先生 書 典謨前解 全」

【備考】 四つ目綴じ 堯典よび舜典を釈す 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「乙 第五三號 書目 静齋先生典

謨前解書 函號五 冊数一」とあり 青筆による句点 墨筆による欄外書き入れあり 題簽「尚書 矢口録」の帙に収む

尚書 典謨後解 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*37*

【葉數】 十八葉

【外題】 内題「矢口録」

【内題】 書き題簽「静齋先生 矢口録 書 典謨後解」

【備考】 四つ目綴じ 堯典よび皋陶謨までを釈す 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題簽「尚

書 矢口録 詩経矢口録」の帙に収む

矢口録 禹貢前解 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*38*

【葉數】 二十七葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き題簽「矢口録 禹貢 前解」

【備考】 四つ目綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「乙 第六四號 書目 矢口録 函號三 冊数一」とあり

青筆による句点 墨筆による欄外書き入れあり 巻末識語に「安永八己亥之歳仲冬中旬 蒙園藏」とあり 題簽「尚書 矢口録」の帙に収む

矢口録 禹貢後解 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*39*

【葉数】 四十五葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き題簽「書 禹貢 後解」

【備考】 四つ目綴じ 扉に「禹貢解 坤」とあり 青筆・朱筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり

卷末識語に「安永八己亥之季冬 蒙園藏」とあり 題簽

「尚書 矢口録」の帙に収む

矢口録 甘誓 五子之歌 胤征 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*40*

【葉数】 二十四葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き題簽「矢口録 甘誓 五子之歌 胤征」

【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 卷末識語に「蒙園藏」とあり 裏表

紙右下に「及川氏」と墨書す 題簽「尚書 矢口録」の

帙に収む

矢口録 太甲 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*41*

【葉数】 五十九葉（墨付五十六葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き題簽「書 太甲 上中下 全」

【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆による欄外書

き入れあり 題簽「尚書 矢口録」の帙に収む

矢口録 微子 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*42*

【葉数】 二十六葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き題簽「書 微子」

【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 卷末識語に「安永八己亥歳季春中旬

蒙園藏」とあり 題簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の

帙に収む

矢口録 洪範序解 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*43*

【葉数】 十六葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き題簽「書 洪範序解」

【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の

帙に収む

詩話 小雅鹿鳴之什 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*44*

【葉数】 二十三葉

【外題】 内題「詩話」

【内題】 書き題簽「静齋先生 詩話 小雅鹿鳴之什」

【備考】 四つ目綴じ 朱筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の

帙に収む

詩話 大雅 文王之什 生民之什 一冊 齋宮静

齋述

LH2*丙*45*

【葉数】 四十三葉

【外題】 内題なし
 【内題】 書き題簽「詩 大雅 文王之什 生民之什」
 【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による
 欄外書き入れあり 題簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の
 帙に収む

詩釋義 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*46*

【葉数】 二十葉
 【外題】 内題「詩釋義」
 【内題】 書き題簽「詩釋義 全」
 【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による
 欄外書き入れあり 卷末識語に「安永七年季冬」とあり
 題簽「詩釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

矢口録「天命」 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*47*

【葉数】 二十四葉
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き題簽「矢口録 天命 称呼之辨之解」
 【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による
 欄外書き入れあり 卷末識語に「安永九庚子之歳秋八月」
 とあり 題簽「詩釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

五紀解 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*48*

【葉数】 八葉
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き題簽「五紀解」

【備考】 四つ目綴じ 『尚書』洪範の「五紀」を釈す 青
 筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題
 簽「詩釋義・論語解・神道解外」の帙に収む
 論語二字解 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*49*

【葉数】 十六葉
 【外題】 内題「論語」
 【内題】 書き題簽「論語二字解」
 【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による
 欄外書き入れあり 卷末識語に「安永八己亥歳季春上旬
 蒙園藏」とあり 題簽「詩釋義・論語解・神道解外」
 の帙に収む

静齋先生神道解 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*50*

【葉数】 七十一葉
 【外題】 内題「神道解」
 【内題】 書き題簽「静齋先生神道解 全」
 【備考】 四つ目綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「己
 第六二號 書目 静齋先生神道解 函號九 冊数一」
 とあり 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入
 れあり 卷末識語に「安永七戊戌之冬」とあり 題簽「詩
 釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

神道解 弟子問 一冊 齋宮静齋述

LH2*丙*51*

【葉数】 四十九葉
 【外題】 内題「神道解」
 【内題】 書き題簽「神道解 弟子問 全」

【備考】 四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による
欄外書き入れあり 題簽「詩釋義・論語解・神道解外」
の帙に収む

神道極秘玉籤集 八巻一冊 岡田正利撰

LH2*内*52*

【葉数】 七十九葉

【外題】 内題「神道極秘玉籤集」

【内題】 書き題簽「神道玉籤集 全」

【備考】 四つ目綴じ 内題の下に「玉木正英門人 岡田正

利撰」とあり 「天人唯一之傳」「四化之傳」などの傳に
分けて論述す 和文 墨筆・朱筆による欄外書き入れあ

り 跋文「于時天明八年歲次戊申七月廿日馳寫諸讚州岡

田邑焉 右者坂上道啓之所藏也道啓者讚州高松之老牛窪

勘兵衛之與力而俗称貞之丞冒田村氏 蒙園藏書」「于時天

明六年丙午歲冬閏十月上旬 騰寫之於讚州岡田邑云 蒙

園藏」 題簽「詩釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

御勘定方御申送銅座取計書扣 岡本撫山叢書 一冊

一帙 岡本撫山手写

LH2*内*53*

【葉数】 四十六葉（墨付四十五葉）

【外題】 内題なし

【内題】 扉書き付け「御勘定方御申送 銅座取計書 扣」

【備考】 大和綴じ 和文 大阪銅座文書の一 岡本撫山関

係文書 扉書き付け左下に「澗水」とあり 題簽「御勘

定方御申送 銅座取計書 扣」の帙に収む 岡本撫山は

黄鵠の妻志んの父

文政元寅五月諸用向之控 岡本撫山叢書 一冊一帙
岡本撫山手写力

LH2*内*54*

【葉数】 二十三葉（墨付十四葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「文政元寅五月 諸用向之控」

【備考】 大和綴じ 和文 大阪銅座文書の一 岡本撫山関

係文書 附箋・挟み物多し 題簽「文政元寅五月 諸用

向之控」の帙に収む

銅座持屋舖樋之上町貸長家之内御建替御普請一件書
抜 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山手写力

LH2*内*55*

【葉数】 百七葉（墨付百五葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「文化十四歳 銅座持屋舖樋之上町

貸長家之内御建替御普請一件書抜」

【備考】 大和綴じ 和文 扉右下に「銅座役人」と墨書す

大阪銅座文書の一 岡本撫山関係文書 一部朱筆あり

附箋・挟み物あり 題簽「銅座持屋舖樋之上町貸長家

之内御建替御普請一件書抜 文化十年」の帙に収む

寛政度江戸古銅吹所創立 岡本撫山叢書 一冊一帙

岡本撫山手写力

LH2*内*56*

【葉数】 二百四十四葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「寛政度 江戸古銅吹所創立」

【備考】 大和綴じ 和文 一部朱筆あり 巻末識語に「安政六己未年ヨリ 諸書付留」とあり 大阪銅座文書の一本岡本撫山関係文書 題簽「江戸古銅吹所創立一件書」の帙に収む

叢書六集 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山手写力 LH12*丙*57*

【葉数】 三百六十六葉
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題「叢書十六集 元治甲子」
 【備考】 大和綴じ 和文 朱筆による書き入れあり 奥書「十六集 地 元治甲子」 元治元年（一八六四）における政局関連の諸文書を抄写する 第一三四葉裏の「元治甲子 京都大火圖 一」と表書きする袋に「京都大火之略圖」「京都大火圖」の二枚（刷り物）を入れる 長州征討の図、天狗党の乱の図を挟む 巻末に「元治元年 御進發御軍立」を綴じ込む 岡本撫山関係文書 題簽「叢書十六集 元治甲子」の帙に収む

叢書三集 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山手写力 LH12*丙*58*

【葉数】 百六十二葉（墨付百五十九葉）
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題「叢書 三集 天保辛丑」
 【備考】 大和綴じ 和文 天保十二年（一八四一）の世事風説諸文書を合綴する 岡本撫山関係文書 題簽「叢書三集 天保辛丑」の帙に収む

備忘録 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山筆 LH12*丙*59*

【葉数】 十六葉（墨付九葉）
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題 明治廿六年十二月稔五日 備忘録
 【備考】 大和綴じ 覚書その他、貴族院議事速記録、大阪朝日新聞の切り抜き、葉書、年金恩給受領心得などを貼り付ける 岡本撫山関係文書 題簽「備忘録」の帙に収む

雑記 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山筆 LH12*丙*60*

【葉数】 八十三葉（墨付十六葉）
 【内題】 書き付け外題「雑記」 扉に「明治三十一年一月廿三日 戊戌正月二日ヨリ 雑記」とあり
 【備考】 四つ目綴じ 漢文および和文 朱筆・墨筆による訂正 欄外書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「雑記 明治三十一年」の帙に収む

夜航詩話鈔 夜航餘話鈔 岡本撫山叢書 一冊一帙 津阪東陽著 岡本撫山筆 LH12*丙*61*

【葉数】 八十八葉
 【外題】 内題「夜航詩話鈔」「夜航餘話鈔」
 【内題】 書き付け外題「夜航詩話 夜航餘話鈔 完」
 【備考】 精写本 四つ目綴じ 冒頭に目次を載せる 「夜航詩話鈔」は漢文、「夜航餘話鈔」は和文 「撫山書房」の青刷罫紙を用う 句点 墨筆・朱筆による書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「夜航詩話 夜航餘話」の帙に収む

護國女太平記 (付) 淀屋三郎右衛門闕所道具・淀屋三郎右衛門闕所之事 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山筆

LH2*内*62*

【葉数】 十九葉

【外題】 内題「護國女太平記」

【内題】 書き付け外題「護國女太平記抄」

【備考】 大和綴じ 内題の下に「享保二丁酉八月上旬東講

散人著」とあり 朱筆・墨筆による欄外書き入れ 岡本

撫山関係文書 題簽「淀屋三郎右衛門闕所一件書」の帙

に収む

文政十二年丑五月 切支丹邪法者處刑一件 岡本撫

山叢書 一冊一帙 岡本撫山筆

LH2*内*63*

【葉数】 十一葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大坂并平安城表二而適 切支丹邪

法行候者在之則東御奉行様は高井山城守様右御組之内吟

味役大塩平八郎様御懸二而則文政十二年五月今宮郷齋

田二おみて桀に相成御捨札之写」

【備考】 大和綴じ 和文 朱筆による書き入れあり 卷末

識語に朱筆で「原書水野弥兵衛所有 明治廿六年二月寫

と記す 岡本撫山関係文書 題簽「文政十二年丑五月

切支丹邪法者處刑一件」の帙に収む

瑠璃本記抜萃 岡本撫山叢書 一冊 岡本撫山筆

LH2*内*64*

【葉数】 二十六葉

【外題】 内題「瑠璃本記 抜萃」

【内題】 書き付け外題「瑠璃本記 抜萃 全」

【備考】 大和綴じ 和文 卷頭欄外に「瑠璃本記 是書八

諸書ヲ輯集シテ編纂セシモノト見ユ 記者文筆無ク俗言

謬語多ク加フルニ傳寫ノ誤脱甚シ 今其中二就キ濫觴沿

革ニ属スルモノヲ抜萃ス 明治二十四年八月稔七日」と

墨書す 朱筆・墨筆による欄外書き入れあり 岡本撫山

関係文書 題簽「浄瑠璃大系圖・瑠璃本記」の帙に収む

浄瑠璃大系圖抜萃 岡本撫山叢書 一冊 竹本筆太夫考 近松狂言堂訂 岡本撫山筆

LH2*内*65*

【葉数】 十四葉

【外題】 内題「浄瑠璃大系圖」

【内題】 書き付け外題「浄瑠璃大系圖 抜萃 全」

【備考】 大和綴じ 和文 第七葉裏に「天保十六年壬寅十

月大坂書肆上梓 明治二十四年辛卯九月初抜萃」とあり

朱筆・墨筆による欄外書き入れあり 岡本撫山関係文

書 題簽「浄瑠璃大系圖・瑠璃本記」の帙に収む

撫山抄録 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山編 岡本

撫山筆

LH2*内*66*

【葉数】 九十二葉

【外題】 内題・外題ともになし

【備考】 大和綴じ 和文および漢文 「諸国風俗問状」「玉

井氏問書」「松平定信の用心」「平泉の金色堂」「角鹿の名

義」「南浦文集一 鏗炮記」「國郡沿革草總論」「淡路の傀

儡師」「賀茂真淵年譜」「本居宣長年譜」「足利學校 閲書

條目「征韓起原」「大和國郡沿革」「武州先聖殿記 羅山文集」「聖堂學規」「伊豫高嶺」「芝居の履歴」「瀬戸窯」「常滑陶器」「中臣壽詞 康治元年十一月」「吉田了以碑銘」「攝豊島郡芝村萱野三平墓碑銘」「法印探幽齋狩野守信碑誌并誌」「紀池田喜内事 藤澤東衮」「神吉雲屋翁傳 藤澤東衮」「奥羽海運記 白石 新井君

日本紀標註假字之例 岡本撫山叢書 一冊一帙 敷田年治著 岡本撫山筆

LH2*丙*67*

【葉數】 二十七葉

【外題】 内題「假字之例 敷田年治日本紀標註」

【内題】 書き付け外題「日本紀 假字之例」

【備考】 大和綴じ 和文 「撥音三類の辯 農學士大島正健」を附す 朱筆・墨筆による書き入れあり 岡本撫山

關係文書 題簽「日本紀標註假字之例」の帙に収む

詩韻 岡本撫山叢書 五冊一帙 岡本撫山筆

LH2*丙*68.1*

【葉數】 一冊目百二十七葉 二冊目百三十八葉(墨付百三十六葉) 三冊目百六葉(墨付百五葉) 四冊目百十四

葉(墨付百十一葉) 五冊目七十四葉(墨付七十二葉)

【外題】 内題「詩韻」

【内題】 書き付け外題「詩韻 甲(乙)(丙)(丁)(戊)」

【備考】 精写本 四つ目綴じ 「撫山書房」の青刷野紙を用う 朱筆による書き入れあり 岡本撫山關係文書 題

簽「詩韻 上平 下平 上聲 去聲 入聲」の帙に収む

詩韻 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山筆

【葉數】 百一葉
【外題】 内題「詩韻」
【内題】 書き付け外題「詩韻」
【備考】 大和綴じ 「撫山書房」の青刷野紙を用う 朱筆による書き入れ多し 岡本撫山關係文書 題簽「詩韻 上平之部」の帙に収む

LH2*丙*69*

雜記 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山筆

LH2*丙*70*

【葉數】 三十三葉(墨付二十二葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「雜記」

【備考】 大和綴じ 和文および漢文 「鶴龜松竹梅の説」

「掛字掛物ノ由来并二茶道ノ起原」「觀雷亭記 祇南海」

「鬮體杯行 秋山玉山」「題高田嘉兵衛翁衛真 藤澤東衮」

「島津氏復姓の文書」「島津氏歴代の歌」「黃門光國教訓」

「半日閑話」「官号改易 續日本紀」「高陽鬪飲序」「題酒

戰圖」などを抄録す 朱筆・墨筆による欄外書き入れあり

岡本撫山關係文書 題簽「雜記 岡本撫山」の帙に

収む

山上行記 岡本撫山叢書 一冊一帙 岡本撫山録 岡本

撫山筆

LH2*丙*71*

【葉數】 六十九葉(墨付六十五葉)

【外題】 内題・外題ともになし

【備考】 大和綴じ 横本 和文 明治六年十月八日から十

月二十日、金剛山、五條、吉野の山々に登つた時の日記

第六葉以降は雑記帳で「藤本常次郎墓碑銘」「日下英男君墓碑銘」「木村中尉墓碑銘」の草稿を含む 岡本撫山関係文書 題簽「山上行記 岡本撫山」の帙に収む

雲煙藏方寸書画帖 一帖一帙

LH2*内*72*

【葉数】 十四葉（墨付九葉）

【外題】 内題「雲煙藏方寸」

【内題】 外題なし

【備考】 帖装 書画帖 岡本撫山関係文書 題簽「雲煙藏

方寸帖」の帙に収む

作臥游計書画帖 一帖一帙

LH2*内*73*

【葉数】 五十六葉（墨付五十葉）

【外題】 内題「作臥游計」

【内題】 外題なし

【備考】 帖装 書画帖 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに

「書目書畫帖」とあり 岡本撫山関係文書 題簽「作臥

遊計帖」の帙に収む

浪華年代記 岡本撫山叢書 四冊一帙 岡本撫山著 岡

本撫山筆

LH2*内*74-1*

【葉数】 一冊目五十一葉 二冊目六十四葉 三冊目五十一

葉 四冊目七十八葉

【外題】 内題なし

【内題】 外題「自神武天皇紀元前戊午年 至後水尾天皇慶

長十九年 二千二百七十七年間 第一卷」「自後水尾天皇

元和元年 至中御門天皇正徳五年 百一年間 第二卷」

「自中御門天皇享保元年 至光格天皇寛政五年 七十八年間 第三卷」「自寛政七年 至慶応三年 七十三年間 第四卷」

【備考】 大和綴じ 和文 墨筆による書き入れ多し 墨筆・

朱筆による欄外書き入れ多し 岡本撫山関係文書 題簽

「浪華年代記」の帙に収む

浪華年代記 岡本撫山叢書 三冊一帙 岡本撫山著 岡

本撫山筆

LH2*内*75-1*

【葉数】 一冊目五十八葉 二冊目五十三葉 三冊目六十四葉

【外題】 内題「浪華年代記」

【内題】 外題「自神武天皇戊午年 至後光明天皇慶安四年

第一卷」「自後光明天皇承應元年 至後桃園天皇明和

八年 第二卷」「自後桃園天皇安永二年 至今上皇帝慶

應三年 第三卷」

【備考】 大和綴じ 丙七四の稿本 和文 朱筆・墨筆による

書き入れ多し 附箋多し 岡本撫山関係文書 題簽「浪

華年代記」の帙に収む

岡本撫山叢書

LH2*内*75-3

浪華人物誌 岡本撫山叢書 二冊一帙 岡本撫山著 岡

本撫山筆

LH2*内*76-1*

【葉数】 一冊目六十九葉 二冊目七十九葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「傳 書儒和学医画」（一冊目）

「傳 茶俳諧 狂歌諸家忠孝戲園雜種」（二冊目）

【備考】 大和綴じ 和文 墨筆・朱筆による書き入れ多し

第一冊目の挟み物に富永仲基らの系図の覚書あり(南岳自筆) 附箋多し 『浪華人物誌』全四巻(吉川弘文館、一九二〇年)の稿本 岡本撫山関係文書 題簽「浪華人物誌 岡本撫山自筆稿本」の帙に収む

浪華名家墓所集 岡本撫山叢書 一冊一帙 暁鐘成撰

岡本撫山筆

LH2*丙*77*

【葉数】 四十六葉(墨付四十五葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「浪華名家墓所集 全」

【備考】 大和綴じ 人物の名、没年、享年、墓の所在、略伝などを日付順に記す 巻末に明治二十七年七月の識語あり、本書が富岡鉄斎旧蔵であることなどを記す 朱筆・墨筆による書き入れ多し 岡本撫山関係文書 題簽「浪華名家墓所集」の帙に収む

兼葭堂書目 一冊一帙 木村巽齋(兼葭堂)撰 木村巽

齋筆

LH2*丙*78*

【葉数】 二百十三葉(墨付百九十二葉)

【外題】 内題「写本目錄」

【内題】 題簽「七香齋叢書」

【備考】 四つ目綴じ 表紙に「泊園文庫」のラベル貼付

見返しの識語に「兼葭翁所持小口中自筆有之也 梅仙」

「此書梅仙嘗贈余數年前又請携去今又寄來 去紛 要應

歸我家耶 明治三十八年三月 七香齋主人(南岳自筆)

とあり 奥書に「兼葭堂書目 鈴木梅仙藏」とあり 朱

筆による書き入れあり 題簽「兼葭堂書目」の帙に収む

那羅延遊草 一冊 田中鳴門撰

LH2*丙*79*

【葉数】 二十二葉

【外題】 内題「那羅延遊草」

【内題】 書き題簽「七香齋叢書」

【備考】 四つ目綴じ 精写本 田中鳴門は名は章、大坂の鑄物師で菅甘谷の門人 朱筆・墨筆による書き入れあり 附箋あり 題簽「那羅延遊草」の帙に収む

那羅延遊草 一冊 田中鳴門撰

LH2*丙*80*

【葉数】 二十頁

【外題】 内題「那羅延遊草」

【内題】 外題「那羅延遊草」

【備考】 排印本 大和綴じ 混沌詩社先賢遺墨展觀誌附録の別刷 見返しに頼春水の「在津紀事」の一節を印刷す 裏表紙の中央に「泊園書院藏書」と印刷す 題簽「那羅延遊草」の帙に収む

良山堂絶句三種稿 一冊一帙 阿部温(絹洲) 阿部

温(絹洲)筆

LH2*丙*81*

【葉数】 十葉

【外題】 内題「良山堂絶句三種稿」

【内題】 書き付け外題「良山堂絶句 奚疑集三」

【備考】 大和綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「庚書目 良山堂絶句 冊数 一」とあり 「絹洲陰稿」(版心上)「良山堂藏梓」(版心下)の朱刷野紙を用う 朱点多し 欄眉書き入れ多し 阿部絹洲は東家友人で南岳の庇護者 題簽「良山堂絶句三種稿」の帙に収む

北山草堂藏書目 一冊一帙 吉田銳雄(北山)著 長谷川雅樹筆

LH2*内*82*

【葉数】 八十一葉(墨付七十七葉)

【外題】 内題「北山草堂藏書目」

【内題】 書き付け外題「北山草堂藏書目 昭和戊寅歲作」

【備考】 四つ目綴じ 朱刷罫紙を主に用う 朱筆・朱色鉛筆・墨筆・黒色ペン・鉛筆による書き入れあり 奥書に

石濱純太郎のペン書きで、右は北山先生の自筆稿本を長谷川雅樹君に囑して移写せしめたものである。大壺とあり 題簽「北山草堂藏書目」の帙に収む

敦煌石室の遺書 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-1*

【項数】 九十六頁

【内題】 外題「敦煌石室の遺書(懷徳堂夏季講演)」

【備考】 洋装活版 大正十四年(一九二五)十二月十八日

発行 印刷は植田政蔵(大阪) 表紙右上にペンで「monsieur Shimamoto de l' Auteur」裏表紙にペンで「Shimamoto Kazuwo 一九一九 August」と書き入れ

大正十四年八月五日から八日まで懷徳堂で行なつた連続講演を訂正のうえ活字にしたもの 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 『大壺先生玉稿』は石濱純太郎著述の抜刷五十七種を蒐めたもの 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

富永謙齋先生小傳 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-2*

【項数】 十五頁

【内題】 外題「富永謙齋先生小傳」

【備考】 洋装活版 昭和十二年(一九三七)十月三日発行 発行兼印刷者は玉樹安造(大阪) 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

眞家所藏謙齋先生遺著遺墨 大壺先生玉稿 二枚

LH2*内*83-3*

【項数】 繪葉書三枚

【内題】 外題「眞家所藏 謙齋先生遺著遺墨」

【備考】 表紙左下に「謙齋先生追遠紀念 昭和十二年十月三日 於西照寺」とあり、この時、大阪西照寺において富永仲基(謙齋)追遠紀念として配布されたもの 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西域出土漢本學要講義案 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-4*

【項数】 三十四頁

【外題】 内題「西域出土漢本學要」

【内題】 書き付け外題(鉛筆)「西域出土漢本學要講義案」

【備考】 大和綴じ 油印 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

群書治要の闕卷に就いて 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-5*

【内題】 外題「泊園書院學會々報 第一冊」

【備考】 洋装活版 『泊園書院學會々報』 第一冊 大正十年二月二日発行 編纂兼発行者は泊園書院学会 全五十八頁 石濱の論文「群書治要の闕卷に就いて」はこの号の五十二～五十八頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西夏遺文雜録（序文に代へて） 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-6*

【項数】 百十四頁
 【内題】 外題「西藏文字對照 西夏文字抄覽」
 【備考】 洋装活版 大阪東洋學會『亜細亞研究』 第四号 大正十五年三月十五日発行 同号はニコライ・ネフスキーの「西藏文字對照 西夏文字抄覽」を掲載する 石濱の「西夏遺文雜録」はその序文であり、この号の三十七頁に掲載される 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

金字蒙文藏經金光明經の斷簡に就て 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-7*

【項数】 二十九頁
 【内題】 外題「金字蒙文藏經金光明經の斷簡に就て」
 【備考】 洋装活版 『支那學』 第四卷第三号抽印 昭和二年（一九二七）九月 赤ペンによる書き入れあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

敦煌雜考（續） 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

【項数】 十頁
 【内題】 外題「敦煌雜考（續）」
 【備考】 洋装活版 『支那學』 第五卷第二号抜刷 昭和四年（一九二九）六月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

LH2*内*83-8*

番漢合時掌中珠 大壺先生玉稿 一冊 ニコライ・ネフスキ 石濱純太郎著

LH2*内*83-9*

【項数】 三頁+図三頁
 【外題】 内題「番漢合時掌中珠 附圖版五」
 【内題】 書き付け外題（鉛筆）「番漢合時掌中珠」
 【備考】 洋装活版 『史林』 第十五卷第一号抜刷 昭和五年（一九三〇）一月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

流沙遺文小記 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-10*

【内題】 外題「龍谷史壇 第二卷第二號」
 【備考】 洋装活版 『龍谷史壇』 第二卷第二号 昭和五年（一九三〇）二月五日発行 全五十二頁 石濱の論文「流沙遺文小記」はこの号の二～六頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

殿版蒙文大藏經考 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎

LH2*内*83-11*

【項数】 七頁+図一頁
 【内題】 外題「殿版蒙文大藏經考」

【備考】 洋装活版 『大谷學報』第十一卷第二号抜刷 昭和五年（一九三〇）九月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

故バルトオールド先生 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-12*

【項数】 七頁

【内題】 外題「故バルトオールド先生」

【備考】 洋装活版 『龍谷大學論叢』第二九五号抜刷 昭和五年（一九三〇）十二月二十五日 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

故バルトオールド先生 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-13*

【内題】 外題「龍谷大學論叢 第二九五號」

【備考】 洋装活版 『龍谷大學論叢』第二九五号 昭和五年（一九三〇）十二月二十五日発行 全百四十四頁 石濱の文章「故バルトオールド先生」はこの号の八十～八十六頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西域出土の西藏本 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-14*

【項数】 十四頁

【内題】 外題「西域出土の西藏本」

【備考】 洋装活版 『大谷學報』第十二卷第一号抜刷 昭和六年（一九三一）一月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

于嚕文智炬陀羅尼經の斷片 大壺先生玉稿 一冊

ニコライ・ネフスキ 石濱純太郎著

LH2*内*83-15*

【項数】 三頁+図一頁

【外題】 内題「于嚕文智炬陀羅尼經の斷片（靜安學社叢稿）」

【備考】 洋装活版 『龍谷大學論叢』第二百二号抜刷 昭和七年（一九三二）五月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西夏國名考補正 大壺先生玉稿 一冊 ニコライ・ネフスキ 石濱純太郎著

LH2*内*83-16*

【項数】 十二頁

【内題】 外題「西夏國名考補正」

【備考】 洋装活版 『龍谷大學論叢』第二百五号抜刷 昭和八年（一九三三）二月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西夏語譯大方廣佛華嚴經入不可思議解脫境界普賢行願品 大壺先生玉稿 一冊 ニコライ・ネフスキ 石濱純太郎 廣瀬督著

LH2*内*83-17*

【項数】 三頁+図四頁

【内題】 外題「西夏語釋大方廣佛華嚴經入不可思議解脫境界普賢行願品」

【備考】 洋装活版 『マユーラ』第二号抜刷 昭和八年（一九三三）十二月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部
書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

群書治要の史類 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎

LH2*内*83-18*

【項数】 二十三頁

【内題】 外題「群書治要の史類」

【備考】 洋装活版 『東洋學叢編』第一冊抜刷 昭和九年

（一九三四）五月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部
書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

殷墟學文獻小志 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-19*

【内題】 外題「龍谷史壇 第十四號」

【備考】 洋装活版 『龍谷史壇』第十四号 昭和九年（一九三四）九月五日発行 全七十頁 石濱の論文「殷墟學

文獻小志」はこの号の二一、二十二頁に掲載 島本一男編
『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」

の箱に収む

滿蒙言語の系統 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-20*

【項数】 五十六頁

【内題】 外題「滿蒙言語の系統」

【備考】 洋装活版 岩波講座東洋思潮第五回配本（東洋言語の系統） 岩波書店 昭和九年（一九三四）十月十五

日発行 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け
外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

羅馬字母より注音識字へ 大壺先生玉稿 一冊 石濱
純太郎

LH2*内*83-21*

【項数】 十四頁

【内題】 外題「羅馬字母より注音識字へ」

【備考】 洋装活版 『龍谷學報』第二百一十一号抜刷 昭和
十年（一九三五）一月 島本一男編『大壺先生玉稿』の
一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

元朝秘史考 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-22*

【項数】 九頁

【内題】 外題「元朝秘史考」

【備考】 洋装活版 『龍谷史壇』第十五号抜刷 昭和十年
（一九三五）四月 ペンによる書き入れあり 島本一男
編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉
稿」の箱に収む

ロシアの東洋學 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-23*

【内題】 外題「東洋史研究 第一卷第六號」

【備考】 洋装活版 『東洋史研究』第一卷第六号 昭和十

一年（一九三六）八月三十日発行 全百頁 石濱の論文
は「學界展望」としてこの号の七十三、八十九頁に掲載

表紙右上に墨筆で「島本學兄」と書き付け 島本一男
編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉
稿」の箱に収む

故渡部薫太郎先生 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-24*

【内題】 外題「東洋史研究 第二巻第一號」

【備考】 洋装活版 『東洋史研究』 第二巻第一号 昭和十

一年(一九三六)十月二十三日発行 全九十九頁 石濱の文章は「彙報」の九十二、九十四頁に掲載 表紙右上にペンで「島本学兄」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

タリヒカタイ考 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-25*

【項数】 六頁+図版一頁

【内題】 外題「タリヒカタイ考」

【備考】 洋装活版 『東洋史研究』 第二巻第六号抜刷 昭和十二年(一九三七)八月 表紙右上にペンで「島本学兄大政」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

讀書隨筆 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-26*

【内題】 外題「泊園 發行十年特輯號」

【備考】 洋装活版 『泊園』 第三十一号 一九三八年一月二十日発行 編集兼発行人は的場信太郎 發行所は泊園

誌社 全三十二頁+図版二頁 石濱の文章はこの号の十六、十八頁に掲載 目次での執筆者名は「石濱大壺」 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

オツセンドウスキー 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

郎著

LH2*内*83-27*

【内題】 外題「宗教と藝術 第十八巻第二・三號」

【備考】 洋装活版 『宗教と藝術』 第十八巻第二・三号 昭和十三年(一九三八)十一月二十五日発行 全九十六

頁 石濱の文章はこの号の二、五頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

近刊成吉思汗傳を讀んで 大壺先生玉稿 一冊 石濱

純太郎著

LH2*内*83-28*

【項数】 十一頁

【内題】 外題「近刊成吉思汗傳を讀んで」

【備考】 洋装活版 『龍谷史壇』 第二十三号抜刷 昭和十四年(一九三九)二月 表紙右上にペンで「島本学兄教

正」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

静安學社通報 第一期 大壺先生玉稿 一冊 石濱純

太郎編

LH2*内*83-29*

【項数】 二十頁

【内題】 外題「静安學社通報」

【備考】 洋装活版 編輯兼発行者は静安学社(代表石濱純太郎) 一九二七年十二月三十日発行 石濱は高橋盛孝、ニコライ・ネフスキー、浅井慧倫、笹谷良造らと中国の学者王国維を記念し東洋学研究を趣旨とする「静安学社」(静安は王国維の字)を發起してその幹事となる 重建懷徳堂内に事務局を置き、この「静安学社通報」第

一期を刊行 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

大阪漢學大會研究報告 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎編

LH2*丙*83-30*

【項数】 八十九頁

【内題】 外題「大阪漢學大會研究報告」

【備考】 洋装活版 典籍之研究社 昭和十三年（一九三三）

十二月二十八日発行 懷徳堂を会場として開かれた第七回大阪漢学大会の研究報告論文集 「漢学大会」は東京帝国大学文学部内の漢学会と財団法人が協力して毎年開催していた会で、第七回は石濱が委員となつて開催された 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

燉煌出土漢藏對音の材料と韻鏡との比較（其一）

大壺先生玉稿 一冊 財津愛象著

LH2*丙*83-31*

【項数】 四十九頁

【内題】 外題「燉煌出土漢藏對音の材料と韻鏡との比較（其一）」

【備考】 洋装活版 『東洋學叢編』第一冊抜刷 昭和九年（一九三四）三月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

唐鈔本文選殘篇跋 大壺先生玉稿 一冊 狩野直喜著

書後 石濱純太郎撰

LH2*丙*83-32*

【項数】 三十一頁

【内題】 外題「唐鈔本文選殘篇跋」

【備考】 洋装活版 『東洋學叢編』第一冊抜刷 昭和九年

（一九三四）三月 石濱は狩野の跋（漢文）のあとに「書後」として意見を記す（漢文、二頁） 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

航歐集 大壺先生玉稿 一冊 内藤虎次郎（湖南）

LH2*丙*83-33*

【葉数】 十八葉

【内題】 外題「航歐集」

【備考】 康熙綴じ 外袋あり 外袋の表に「内藤虎敬呈」の朱文印あり 大正十五年（一九二六）九月序 大正十三年（一九二四）七月から翌年の内藤湖南ヨーロッパ歴訪時における漢詩文を載せる この欧州歴訪には石濱も同行した 冒頭に湖南の律詩十五首「航歐十五律」を湖南手録により載せる 鈴木虎雄、長尾甲（雨山）、倉石武（武四郎）、織田萬らの送別詩も掲載する 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

滿州語譯大藏經考 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*丙*83-34*

【項数】 十三頁

【内題】 外題「滿州語譯大藏經考」

【備考】 洋装活版 『書物の趣味』第一冊抜刷 京都・書物の趣味社 昭和二年（一九二七）十一月一日発行 末尾に「好洛問事室」、「四」印 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

滿州語譯大藏經考（續） 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*丙*83-35*

【項数】 十二頁

【内題】 外題「滿州語譯大藏經考（續）」

【備考】 洋装活版 『書物の趣味』第二冊抜刷 京都・書物の趣味社 昭和三年（一九二八）五月二十八日発行

島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

滿州語譯大藏經考（續々） 大壺先生玉稿 一冊

石濱純太郎著

LH2*丙*83-36*

【項数】 十一頁

【内題】 外題「滿州語譯大藏經考（續）」

【備考】 洋装活版 『書物の趣味』第六冊別刷 京都・書物の趣味社 昭和五年（一九三〇）十二月二十五日 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

續露國の文献目錄 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*丙*83-37*

【項数】 四頁

【外題】 内題「續露國の文献目錄」

【備考】 洋装活版 発行年月・掲載誌未詳 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

京都帝國大學所藏蒙文丹殊爾記 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*丙*83-38*

【項数】 七頁+図一頁

【内題】 外題「京都帝國大學所藏蒙文丹殊爾記」

【備考】 洋装活版 桑原博士還曆記念會編『桑原博士還曆記念東洋史論叢』抜刷 京都・弘文堂書房 昭和五年（一九三〇）五月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

無量壽宗要經考補 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*丙*83-39*

【項数】 九頁

【内題】 外題「無量壽宗要經考補」

【備考】 洋装活版 『東洋學報』第十六卷第二号抜刷 昭和二年（一九二七）六月 末尾に「好洛間事室」印、「十二」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

北堂書鈔の舜典孔傳 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*丙*83-40*

【項数】 十二頁

【内題】 外題「北堂書鈔の舜典孔傳」

【備考】 洋装活版 『内藤博士還曆祝賀支那學論叢』抜刷 京都・弘文堂書房 大正十五年（一九二六）五月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

富永謙齋先生 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*丙*83-41*

【内題】 外題「關西大學學報 第三百十號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第三百十号 昭和十年（一九三五）六月十五日発行 全三十四頁 石濱の文章は「浪華儒林傳（一）富永謙齋先生」としてこの号の十六～十九頁に掲載 赤ペンによる書き入れあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

菅甘谷先生 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-42*

【内題】 外題「關西大學學報 第三百十一號」
 【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第三百十一号 昭和十年（一九三五）七月十五日発行 全三十頁 石濱の文章は「浪華儒林傳（二）菅甘谷先生」としてこの号の十六頁に掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂遺贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

藤澤東袞先生 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-43*

【内題】 外題「關西大學學報 第三百十二號」
 【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第三百十二号 昭和十年（一九三五）九月十五日刊行 全三十一頁 石濱の文章は「浪華儒林傳（三）藤澤東袞先生」としてこの号の十五～十六頁に掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂寄贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

藤澤南岳先生 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-44*

【内題】 外題「關西大學學報 第三百二十三號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第三百二十三号 昭和十年（一九三五）十月十五日発行 全三十二頁 石濱の文章は「浪華儒林傳 藤澤南岳先生」としてこの号の十四～十五頁、三十二頁に掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂寄贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

藤澤南岳先生 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-45*

【内題】 外題「關西大學學報 第三百二十三號」
 【備考】 LH2/丙八三 四四に同じ

梅花社の篠崎氏（上） 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-46*

【内題】 外題「關西大學學報 第三百十四號」
 【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第三百二十四号 昭和十年（一九三五）十一月十五日発行 全二十八頁 石濱の文章は「浪華儒林傳（五）梅花社の篠崎氏（上）」としてこの号の二十一～二十二頁に掲載 表紙右上にペンで「島本君」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

梅花社の篠崎氏（下） 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-47*

【内題】 外題「關西大學學報 第三百十五號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第三百三十五号 昭和

十一年(一九三六)一月一日発行 全三十頁 石濱の文

章は「浪華儒林傳(六)梅花社の篠崎氏(下)」としての
の号の二十四、二十六頁に掲載 表紙右上にペンで「島
本学兄」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』
の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

堀河學派の中江岷山 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太

郎著

LH2*内*83-48*

【内題】 外題「關西大學學報 第四百十二號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第四百十二号 昭和

十一年(一九三六)九月十五日発行 全二十四頁 石濱
の文章は「續浪華儒林傳(三)堀河學派の中江岷山」とし
てこの号の十二、十三頁に掲載 表紙右上にペンで「島
本学兄」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』
の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

一井鳳梧 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-49*

【内題】 外題「關西大學學報 第四百十三號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第四百十三号 昭和

十一年(一九三六)十月十五日発行 全二十二頁 石濱
の文章は「續浪華儒林傳(四)一井鳳梧」としてこの号
の十一頁に掲載 表紙右上にペンで「島本学兄」と
書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書
き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

掖玖の聖人如竹散人 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太

郎著

LH2*内*83-50*

【内題】 外題「關西大學學報 第四百十五號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第四百十三号 昭和
十二年(一九三七)一月一日発行 全二十四頁 石濱の
文章は「續浪華儒林傳(五)掖玖の聖人如竹散人」として
この号の二十二頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』
の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

大阪の漢學 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-51*

【内題】 外題「關西大學學報 第五百十六・七號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』 第五百十六・七号 昭
和十三年(一九三八)三月十五日発行 全二十二頁 石
濱の文章はこの号の一、四頁に掲載 表紙右上にペンで
「島本学兄」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉
稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

大阪の漢學 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-52*

【内題】 外題「關西大學學報 第五百十六・七號」

【備考】 LH2*内*83-51に同じ 表紙右上にペンで
「的場菊堂学兄」と書き付けあり

東洋文學科増設に際して 大壺先生玉稿 一冊 石濱

純太郎著

LH2*内*83-53*

【内題】 外題「關西大學學報 第二百二十七號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』第二百三十七号 昭和二十六年（一九五二）二月十五日発行 全十六頁 石濱の文章はこの号の見返しに掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂寄贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

謹んで黄坡先生に告ぐるの文 大壺先生玉稿 一冊

石濱純太郎著

LH2*内*83-54*

【内題】 外題「關西大學學報 第二百三十八號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』第二百三十八号 昭和二十六年（一九五二）四月十五日発行 全二十頁 石濱

の文章はこの号の十六頁に掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂寄贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

泊園文庫について 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

LH2*内*83-55*

【内題】 外題「關西大學學報 第二百四十二號」

【備考】 洋装活版 『關西大學學報』第二百四十二号 昭和二十六年（一九五二）九月十五日発行 全十四頁 石

濱の文章はこの号の九、十頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

富永謙齋先生傳續考 大壺先生玉稿 一冊 石濱純太郎著

郎著

LH2*内*83-56*

【内題】 外題に「創立五十周年記念特輯號 背光」

【備考】 洋装活版 『背光』關西大学創立五十周年記念特輯号 關西大学千里山学友会新聞部 昭和十一年（一九三六）六月刊行 全百六十五頁 石濱純太郎の論文はこの号の百十二、百十三頁 表紙外題の右上に「謹呈」の印あり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

龜田氏貯春樓所藏本節用集目錄

一冊 龜田次郎編

LH2*内*83-57*

【項数】 七頁

【外題】 内題「家藏節用集目錄」

【内題】 外題「龜田氏貯春樓所藏本節用集目錄」

【備考】 油印 外題の左下に「静安学社」とあり 内題の下に「昭和八年六月現在」とあり ペンによる修正あり

文章廻瀾 一冊一帙 五井蘭洲編

LH2*内*1*

【葉数】 二十四葉

【外題】 内題「文章廻瀾」

【内題】 書き付け外題「文章廻瀾」

【備考】 大和綴じ 第二十二葉冒頭に「辨滄浪詩話 附録」とあり 欄外書き入れ多し 題簽「文章廻瀾」の帙に収む

東袞先生略傳 一冊 永田仁助著

LH2*内*90*

【項数】 八頁

【外題】 内題「東袞先生略傳」

【内題】 外題「東袞先生略傳」

【備考】 活版 大和綴じ 和文 大正天皇即位の大礼実施の際、東袞は従四位に追贈され、南岳は正五位に叙せられた

その叙位祝賀会において頒布された小冊子

焜蒿餘影

一冊一帙 藤澤南岳・藤澤黄鵠編

LH2*内*95*

【葉数】 六十二葉

【外題】 内題なし

【内題】 題簽「焜蒿餘影」

【備考】 大和綴じ 藤澤南岳題字「念茲在茲 南岳」「君

子香」印、「香翁」印 藤澤黄鵠跋（大正二年七月）

卷末に「的場菊堂遺書」印 大正二年（一九一三）四月

六日、東袞五十年祭（没後五十年）を大阪生玉の齡延寺

で挙行した際、諸家の蔵する東袞の遺墨を大寶寺で多数

展示した それらの遺墨を写真石印により収載した記念

帖 帙入り 関西大学図書館の封筒を挟み、封筒内に東

袞・南岳の書の写真を多数収む

束脩領收録

一冊

LH2*内*91*

【葉数】 四十八葉（墨付三十四葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「明治三十四年一月 束脩領收録」

【備考】 横帳綴じ 裏表紙に「泊園書院」と大書す 泊園

書院の束脩（月謝）受領簿 毎月の束脩受領につき、上

に「一束脩志封」（二人目以降は「一同」と記し、下に

姓名を記したうえで、上に「領」印を、姓名の上に「藤

澤」印を押す 明治三十四年（一九〇一）一月から大正

八年（一九一九）四月までの記録 帙なし

通學生月謝領收簿

一冊 藤澤南岳ら筆

LH2*内*92*

【葉数】 六十九葉（墨付二十七葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大正五年十月初志 通學生月謝領

收簿」

【備考】 横帳綴じ 裏表紙に「泊園書院」と大書す 泊園

書院通學生の月謝受領簿 毎月の月謝受領につき、上に

「一月謝志封」（二人目以降は「一同」と記し、下に姓

名を記したうえで、上に「領」印を、姓名の上に「藤澤」

印を押す 「一月謝志封」は大正七年三月分から「一金

壹円束」と記され、同年十月から「一金貳円」と記され

る 大正五年（一九一六）九月から大正八年十二月まで

の記録 帙なし

月謝領收簿

一冊 藤澤黄鵠筆力

LH2*内*93*

【項数】 百九十六頁

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大正三年甲寅 月謝領收簿」一

月、十二月の上に「領」印多数 卷末に「大阪市南區・

竹屋町九番地・泊園書院分院」印

【備考】 洋装 青刷野紙を用う 裏表紙に「泊園書院分院」

と墨書す 最終頁に「泊園書院分院」印あり 泊園書院

分院の学生の月謝受領簿 十二月分の表が印刷され下に

姓名を記す 各月の枠内に「領」印を押し、あるいは「欠

」退」などと記す 大正三年（一九一四）から大正十三年

（一九二四）までの記録 挟み物として「泊園書院分院」

の領收書三枚、大阪朝日新聞号外二点、「小爲替金受領證

書」（貳円也） 大正十三年七月五日、「日本通用」の

広告あり

市郡各地講演會雜錄 一冊 藤澤南岳ら筆

LH2*丙*94*

【葉數】 百葉(墨付十葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題 大正甲寅四月 市郡各地講演會雜錄

【備考】 洋装 「池村製」の用箋を用う 裏表紙に「大阪

東區東平野町 泊園書院」と墨書す 扉に尚徳會、柴嶋

講演會、進正社、崇徳會、第四師團講演會、友仁會、加

嶋振徳會の日程を墨書す 続いて各講演會の日付と参加

者名簿などを列記す 冒頭に「七八両月過程表」(癸巳七

月 泊園書院)一枚および友仁會賛助員・維持會員を列

記した名簿三葉を挟む

七香齋印譜 一帖一帙 藤澤南岳

LH2*丙*87*

【葉數】 十九葉(うち三葉に印影あり)

【外題】 内題・外題ともなし

【備考】 帖装 南岳の私印十三顆を押印す 冒頭に「盡自

得 七香齋主人」と墨筆で自題す 題簽「七香齋印譜」

の帙に収む 南岳の印譜については吾妻重二編著『泊園

文庫印譜集』(泊園書院資料集成二、関西大学東西学術研

究所研究資料集刊二十九 二、関西大学出版部、二〇一

三年三月)を参照

城山道人稿 一冊一帙 中山城山著 中山土駟輯校

LH2*丙*88*

【葉數】 五十一葉

【外題】 内題「城山道人稿」

【内題】 書き付け外題「城山道人稿 全」

【備考】 四つ目綴じ 四周単辺有界の用箋を用う 巻首に

「城山道人稿 東箒 藤鷹伯鷹著ノ男 中山駟土駟輯校」

とあり 藤澤黄坡の跋文あり、末尾に「昭和丁丑一月

後學 藤澤章謹識」と記す 朱点 墨筆による書き入れ

あり 題箋「城山道人稿」の帙に収む 昭和十二年(一

九三七)四月泊園書院が「泊園叢書」第一冊として影印

刊行した『城山道人稿』の原本

探奇小録 一冊 藤澤南岳著

LH2*丙*86*

【葉數】 二十三葉

【外題】 内題「探奇小録」

【内題】 題簽「探奇小録 全」

【備考】 活版 康熙綴じ 「七香齋藏」の用箋を用う 奥

付に「明治二十年六月六日御届 同年七月刻成」著述兼

出版人 愛媛縣土族 藤澤南岳「大阪府東區淡路町一

丁目十六番地寄留」とあり 「蒼曰」に始まる按語を記

した紙片を多く挟む 朱筆・墨筆による書き入れあり

洗醒餘録 一冊 藤澤黄鶴著

LH2*丙*89*

【葉數】 二十六葉

【外題】 内題「洗醒餘録」

【内題】 題簽「洗醒餘録 全」

【備考】 石印 康熙綴じ 四周双辺有界の用箋を用う 巻

首に「洗醒餘録 浪華 黄鶴藤澤元撰」とあり 巻末に

乙卯(一九一五)年十月二十一日「靖堂」に寄せた黄鶴

の識語あり 奥付に「大正三年十二月二十二日印刷」大

正三年十二月二十五日発行／非賣品」著者 大阪市東區東平野町五丁目百八十九番地ノ一 泊園書院 藤澤黄鵠」とあり 本書は吾妻重二編著『泊園書院歴史資料集』（泊園書院資料集成一、東西学術研究所資料集刊二十九一、二〇一〇年）に影印を載せるが、巻末の黄鵠識語は影印にはない

泊園同窓會誌 第四冊

LH2*内*96-4*

- 【項数】 二十八頁
【内題】 外題「泊園同窓會誌 第四冊」
【備考】 洋装活版 表紙右下に「大阪市東區東平野町五丁目壹八九 泊園書院」の印あり 見返しに「泊園同窓會規則」を載せる 巻頭に藤澤東菴の七言律詩「偶成」（扇面）の写真を載せる 正誤表を挟む 裏表紙上に「（非賣品）」と印刷す

泊園同窓會誌 第五冊

LH2*内*96-5*

- 【項数】 三十頁
【内題】 外題「泊園同窓會誌 第五冊」
【備考】 主な書誌事項は「E二ノ丙九六 四に同じ」 巻頭に藤澤南岳の明治辛卯（明治二十四年）正月の聖勅奉読式における漢文の即興賦（全四頁）を載せる

第九回泊園同窓會誌

LH2*内*96-9*

- 【項数】 三十七頁
【内題】 外題「第九回泊園同窓會誌」

【備考】 主な書誌事項は「E二ノ丙九六 四に同じ」
第十回泊園同窓會誌

LH2*内*96-10*

- 【項数】 三十四頁
【内題】 外題「第十回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項は「E二ノ丙九六 四に同じ」

第十一回泊園同窓會誌

LH2*内*96-11*

- 【項数】 二十六頁
【内題】 外題「第十一回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項は「E二ノ丙九六 四に同じ」

第拾貳回泊園同窓會誌

LH2*内*96-12*

- 【項数】 十六頁
【内題】 外題「第拾貳回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項は「E二ノ丙九六 四に同じ」

第拾參回泊園同窓會誌

LH2*内*96-13*

- 【項数】 二十六頁
【内題】 外題「第拾參回泊園同窓會誌」
【備考】 洋装活版 表紙に目次を載せる 表紙右下に「大阪市東區東平野町五丁目壹八九 泊園書院」の印あり 見返しに「泊園同窓會規約」を載せる

第拾四回泊園同窓會誌

LH2*内*96-14*

- 【項数】 二十八頁
【内題】 外題「第拾四回泊園同窓會誌」

【備考】 副本あり（封筒入り） 表紙に目次を載せ、目次の下に「泊園同窓會幹事印」の印あり 巻頭に南岳の写真を載せる 二十五頁に「泊園文庫設立（假）規約」を載せるが、すぐ下に「此件取消」の印あり（副本も同じ）
他の書誌事項はLH21/丙九六 一三に同じ

第拾五六回泊園同窓會誌

LH2*丙*96-

15/16*

【項数】 二十五頁 + 四十四頁（
【内題】 外題「第拾五六回泊園同窓會誌」
【備考】 洋装活版 表紙左下に「泊園同窓會」とあり 「登門録」を附載し、南岳自身の朱筆訂正あり、末尾に「四十二年蘭月校正 七香齋」と朱書す 「登門録」は吾妻重二編著『泊園書院歴史資料集』（泊園書院資料集成一、東西学術研究所資料集刊二十九 一、二〇一〇年）に影印を載せる

第拾七回泊園同窓會誌

LH2*丙*96-17*

【項数】 二十五頁
【内題】 外題「第拾七回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項はLH21/丙九六 一三に同じ

第拾八回泊園同窓會誌

LH2*丙*96-18*

【項数】 四十頁
【内題】 外題「第拾八回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項はLH21/丙九六 一三に同じ

第拾九回泊園同窓會誌

LH2*丙*96-19*

【項数】 四十二頁
【内題】 外題「第拾九回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項はLH21/丙九六 一三に同じ 朱による訂正あり

第貳拾回泊園同窓會誌

LH2*丙*96-20*

【項数】 三十一頁
【内題】 外題「第貳拾回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項はLH21/丙九六 一三に同じ 冒頭に泊園同窓會設立二十年を記念する南岳の祝辞（漢文）を載せる 奥付の上部に「東都泊園同窓會規約」を載せる

第貳拾壹回泊園同窓會誌

LH2*丙*96-21*

【項数】 五十四頁
【内題】 外題「第貳拾壹回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項はLH21/丙九六 一三に同じ 奥付の上部に「東都泊園同窓會規約」を載せる

第貳拾貳回泊園同窓會誌

LH2*丙*96-22*

【項数】 三十三頁
【内題】 外題「第貳拾貳回泊園同窓會誌」
【備考】 主な書誌事項はLH21/丙九六 一三に同じ 奥付の上部に「東都泊園同窓會規約」を載せる

第貳拾參四五六回泊園同窓會誌

LH2*丙*96-

23/26*

- 【項数】 六十六頁+五十八頁+
- 【内題】 外題「第貳拾壹回泊園同窓會誌」
- 【備考】 主な書誌事項は「H二ノ丙九六 一三に同じ」巻頭に同窓会延期に関する「緊告」（大正六年十二月）、泊園書院の写真二枚、明治四十四年（一九一）十月の南岳古稀記念祝賀会の写真二枚、大正二年（一九一三）四月の東袞先生五十年祭の写真二枚、大正四年（一九一五）四月の贈位報告会祝の写真一枚を載せる。奥付のあとに「泊園同窓會規約」と、「東都泊園同窓會規約」をまとめて載せる。墨筆による書き入れあり

泰梁餘哀

LH2*丙*97*

- 【項数】 三十七頁
- 【内題】 外題「泰梁餘哀」
- 【備考】 洋装活版。表紙の外題右上に「大正十一年三月」、左下に「泊園同窓會」とあり。巻頭に「藤澤南岳先生墓」「同上碑陰」「南岳夫子埋髻詩碑」の写真三枚を載せる。本書は大正九年二月、南岳の死去にあたり、臨終および葬儀の様子、各界からの弔辞、同年十一月二十五日開催の追悼公演会の式次第などを詳しく記録する

正氣書院同窓會誌 第十二号

LH2*丙*98*

- 【項数】 五十五頁
- 【外題】 内題「正氣書院同窓會誌 第十二号」
- 【内題】 外題「正氣書院同窓會誌 第十二号」

【備考】 洋装活版。表紙に朱熹の「正氣晦翁」の書の拓本

写真を掲げる。巻頭に会澤正心斎「克己復禮」、岡村閑翁「黄衣裳元吉」の書の写真を載せる。正氣書院の創設者は南岳門人の越智宣哲

泊園 發行十年特輯號

LH2*丙*99*

- 【項数】 三十二頁
- 【内題】 外題「泊園 發行十年特輯號」
- 【備考】 『泊園』第三十一号。洋装活版。裏表紙に「泊園誌社」と印刷す。巻頭に富岡鉄斎の画（南岳と鉄斎の交遊を描く）、東袞の書（五言律詩）、黄坡の書（七言絶句二首）の写真を載せる。本雑誌は「H二ノ丙八三 二六に同じ」

三惜書屋詩稿 一冊 藤澤黄坡撰 藤澤桓夫・石濱純太郎編校

LH2*丙*100*

- 【葉数】 二十葉
- 【外題】 内題「三惜書屋詩稿」
- 【内題】 題簽「黄坡遺稿」 扉「三惜書屋二稿」
- 【備考】 黄坡の漢詩集。洋装活版。袋綴じ。題箋は「黄坡遺稿」、扉は「三惜書屋二稿」。冒頭に黄坡の写真を載せる。巻首に「三惜書屋詩稿 藤澤黄坡先生撰 男 桓夫 / 姻弟石濱純 同輯校」、奥題に「詩稿終 大阪藤澤氏龍 仙窟刊印」とあり。赤ペンによる書き入れあり（石濱純 太郎筆力）

生員勤情表（勤情月日評） 八冊 藤澤南岳筆

【葉数】 一冊目二十三葉 二冊目五十葉（墨付四十八葉）

LH2*内*101*1

三冊目三十五葉 四冊目二十六葉（墨付十五葉） 五冊目

三十葉（墨付二十三葉） 六冊目三十三葉 七冊目五十葉

（墨付十六葉） 八冊目三十五葉（墨付三十四葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「生員勤情表 一」「勤情月旦評

二（三）（四）（五）（六）（八）」「月旦表 七」

【備考】 大和綴じ 横本 一冊目から七冊目までは精写本、

八冊目は草稿 三冊目から七冊目まで「月旦評」（版心上）、「泊園書院」（版心下）の青刷野紙を用う 版心上部に年（干支）と月を記す 一冊目・二冊目・八冊目の裏

表紙に「泊園社」と墨書す 墨筆・朱筆による書き入れあり 帙なし 塾生の毎月の成績表 野線を引いて上下

四段に分かち、等級と学生の姓名を記す 等級は二等上から九等下まで分かれ、三等以上を高等とする 一冊目

表紙外題に「生員勤情表 一」と墨書し、表紙右に「明治十年 十一年」と朱書す 明治十年五月から明治十一年十二月

泊園書院入學願書関係資料 十二枚

泊園書院入學願書関係資料

十二枚

LH2*内*102*

【内題】 書き付け外題「泊園書院入學願書関係資料」

【備考】 泊園書院への入學願一枚（高山憲之助、大正五年

三月）、一二十七×三十八・三センチ 「本庄主一」の住

所・氏名を記したメモ一枚（日付：二月二十四日 入學

用のメモか）、入學時の「保證書」十枚（大正三年から六

年）、一二十七・二×十九・六センチ 紙袋に入る

泊園書院學制 一冊

LH2*内*103*

【葉数】 七葉

【外題】 内題「泊園書院學制」

【内題】 書き付け外題「泊園書院學制」

【備考】 大和綴じ 和文 表紙右下に「吹田町 巨 龜太

郎」の書き付けあり 筆者は巨龜太郎か 小引に続き第

一款から第七款に至る書院の規定を記す 帙なし 本資

料は吾妻重二編著『泊園文庫印譜集』（泊園書院資料集成

二、関西大学東西学術研究所研究資料集刊二十九 一、関

西大学出版部、二〇一三年三月）に全文を翻刻掲載する

通學生勤情表 五冊

LH2*内*104*2

【葉数】 一冊目六葉 二冊目六葉（墨付五葉） 三冊目五

葉 四冊目四葉 五冊目七葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「通學生勤情表」（一冊目、二冊目、

五冊目）、「通學生欠勤一覽」（三冊目）、「通學生一覽」

（四冊目）

【備考】 大和綴じ 青刷野紙を用う 明治二十九年（一九

〇六）の出席簿 住所・氏名欄のあとに日付欄があり、

出席であれば「勤」の朱印を押す 各人の受講科目名を

欄外に墨書す 帙なし 一冊目 表紙に「明治三十九年二

月 通學生勤情表 計三拾壹名 泊園書院」と書き付け

二冊目 表紙に「明治卅九年三月 通學生勤情表 泊園

書院」と書き付け三冊目 表紙に「明治卅九年四月 通

學生欠勤一覽 泊園書院」と書き付け 表紙に「梅見」

印四冊目 表紙に「明治卅九年五月 通學生一覽 泊園書院」と書き付け 末尾に「〆二十四人」と墨書す

文章廻瀾 一冊一帙 五井蘭洲編

LH2*内*1*

【葉数】 二十四葉

【外題】 内題「文章廻瀾」

【内題】 書き付け外題「文章廻瀾」

【備考】 大和綴じ 第二十二葉冒頭に「辨滄浪詩話 附録」とあり 欄外書き入れ多し 題簽「文章廻瀾」の帙に収む

第拾七回泊園同窓會通知簿

一冊 藤澤南岳筆

LH2*内*105*17

【葉数】 二十葉

【外題】 内題「明治乙巳第十七回泊園同窓會通知人名簿」

【内題】 書き付け外題「第拾七回泊園同窓會通知簿」

【備考】 大和綴じ 明治二十八年十月十七日開催の第十七回泊園同窓會名簿 青刷罫紙を用い、上から「会費」「国名」「市區町村番地」「氏名」に分けて記入 墨筆・朱筆・赤鉛筆などによる書き入れ多し 帙なし

乙巳修學旅行詩 寧都訪古録

一冊

LH2*内*106*

【葉数】 九葉

【内題】 書き付け外題「乙巳修學旅行詩 寧都訪古録」

【備考】 大和綴じ 油印 明治二十八年十月の漢詩文による旅行記 冒頭に「修學旅行詩記」を載せる 巻末に「雅多拜稿」とあり 「修學旅行詩記」に「今年乙巳歳十月 我校例課修學旅行」といい、初年・二年・三年の学生二百余人は崇禪寺に詣で、四年・五年の学生百余人は生駒山

を越え奈良法隆寺に向かったといい、旅行記中に東軍・西軍の二隊に分かれて教練を行なうなどの記述があることから、黄坡が前年の明治三十七年まで勤務していた大阪陸軍幼年学校の学生によるものである

泊園文庫展観目録 一枚

LH2*内*107*

【外題】 内題「泊園文庫展観目録」

【内題】 外題「泊園文庫展観目録」 昭和廿六年十月七日展

観 関西大学

【備考】 油印 昭和二十六年十月七日、関西大学文学部東洋文学科創設記念講演会に際して開かれた「泊園文庫展観」の目録 ペン書きによる訂正あり 紙袋に入る

登門録原稿 五冊

LH2*内*108*1

【葉数】 一冊目四十七葉 二冊目二十七葉 三冊目十八葉

四冊目六葉 五冊目二十八葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「登門録 原稿 一(一)(二)(三)(四)(五終)」 表紙右上隅に「ア(イ)(ウ)(エ)(オ)」と墨書す

【備考】 大和綴じ 藍刷罫紙を用う 第一冊にはア段(アカサナハマヤラワ)、第二冊にはイ段(イキシチニヒミ)、第三冊にはウ段(ウクスツヌフムユ)、第四冊にはエ段(エセテネヘメ)、第五冊にはオ段(オコソトノホモヨロ)に始まる名を載せ、名の下に住所を記す 名の上「出」「終」の小印多数あり 墨筆・朱筆による書き入

れ多し 『第拾五六回泊園同窓會誌』(丁二/丙九六
一五/一六) 附載「登門録」の原稿か 秩なし

泊園書生姓名録 一冊

LH2*丙*109*

【葉数】 五十九葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き題簽「泊園書生姓名録」

【備考】 四つ目綴じ 奥付に「泊園塾ノ知事ノ全部二百八

十八人」とあり、裏表紙に「知事ノ司史ノ共」とある。

朱筆・墨筆による書き入れあり 天保十四年(癸卯、一

八四七)から安政六年(己未)に至る東叅時代十六年の

塾生名簿 吾妻重二編著『泊園書院歴史資料集』(泊園書

院資料集成一、東西學術研究所資料集刊二十九 一、二

〇一〇年)に全文の翻刻を載せる 帙なし

講筵出席簿 一冊

LH2*丙*110*

【葉数】 二百一葉(墨付百九葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大正六年一月 講筵出席簿」

【備考】 洋装 青刷野紙を用う 裏表紙に「大阪東區東平

野町 泊園書院」と墨書す 大正六年(一九一七)およ

び九年(一九二〇)〜十二年(一九二三)の出席簿 上欄

に日付、下欄に氏名を記し、日付欄に出欠の印をつける

應門簿 四冊

LH2*丙*111*

【葉数】 一冊目八十九葉 二冊目百九葉(墨付九十七葉)

三冊目七十七葉(墨付六十葉) 四冊目四十五葉

【内題】 一冊目外題「壬辰八月一日改 應門簿 泊園書院」、

扉の文字は外題に同じ 二冊目外題「乙未三月一日改

應門簿 泊園書院」 三冊目外題「明治己亥一月 應門

簿 泊園書院」 四冊目外題「應門簿」

【備考】 一冊目・二冊目は線装(四つ目綴じ) 三冊目・

四冊目は洋装 一冊目は朱刷野紙、二冊目、四冊目は青

刷野紙を用う 上から「月日」「出入」「入退及帰省帰院」

「應門者姓名」などに分け、毎日の書院の出入について

詳細に記録する 「應門者姓名」は出入の管理・記録者

のことであるう 帙なし一冊目 明治二十五年(一八九

二)八月一日から同二十八年(一八九五)三月一日まで

奥付に「明治廿七年四月三十日」とあり 二冊目 明

治同二十八年(一八九五)三月一日から同三十二年(一

八九九)一月六日まで三冊目 明治三十二年(一八九九)

生徒手帳 一冊

LH2*丙*112*

【項数】 百三十六頁+二十頁

【外題】 内題なし

【内題】 外題「生徒手帳 明治四十年四月入学」

【備考】 洋装活版 岸和田中学校校歌を載せることから、

同校作成の生徒手帳と思われる

第貳拾貳回泊園同窓會常費寄贈録 一冊

LH2*丙*113*

【葉数】 十四葉(墨付七葉)

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「明治四拾參年十月 第貳拾貳回泊

園同窓會常費寄贈録 附特別寄贈金」

【備考】 大和綴じ 青刷罫紙を用う 明治四十三年十月十七日開催の第二十二回泊園同窓会における会費納付者名簿 上から「金額」「住所」「氏名」に分けて記入 末尾に「特別寄贈者氏名」を載せる 朱筆・墨筆による書き入れ多し 帙なし

贈叙位祝賀會 出席門生氏名録 出席會員氏名録

一冊

LH2*丙*114*

【葉数】 二十一葉（墨付十五葉）

【内題】 書き付け外題「贈叙位祝賀會 出席門生氏名録」

出席會員氏名録」 第十葉表に「出席門生氏名録」

【備考】 大和綴じ 藍刷罫紙などを用う 大正四年十二月

十六日における東袞と南岳の贈叙位祝賀會の出席者名簿 氏名のみ載せる 墨筆・赤鉛筆による書き入れ多し

帙なし

書院雑事録

一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2*丙*115*

【葉数】 二十九葉（墨付四葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「書院雑事録」

【備考】 大和綴じ 藍刷罫紙を用う 「冬至釋奠儀註」「試業則」「春期釋奠式」の項目あり 帙なし

出席來賓芳名録

一冊 藤澤黃鶴筆力

LH2*丙*116*

【葉数】 十四葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「出席來賓芳名録」

【備考】 大和綴じ 青刷罫紙を用う 氏名および肩書もしくは住所を記す 墨筆・赤ペンによる書き入れ多し 帙なし

祝賀會發起人名簿

一冊

LH2*丙*117*

【葉数】 五葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「祝賀會發起人名簿」

【備考】 大和綴じ 表紙右下に「藤澤先生贈叙位祝賀會之

印」印 大正四年十二月十六日における東袞と南岳の贈叙位祝賀會の發起人名簿 氏名のみ記す 欄外書き入れあり 帙なし

大阪府郡部同窓會名簿

一冊 藤澤南岳筆

LH2*丙*118*

【葉数】 七葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「第二号 大阪府郡部」

【備考】 大和綴じ 青刷罫紙を用う 氏名と住所を記す

LH2*丙*119* 一八に続くものか 朱筆・墨筆による書き入れ多し 帙なし

泊園同窓會列席申込者名簿

一冊

LH2*丙*119*

【葉数】 二十四葉（墨付二十三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「泊園同窓會列席申込者名簿」など

【備考】 大和綴じ 青刷野紙を用う 上から「會費」「国名」「市郡町村」「人名」に分けるなどして記す 次の四点を合冊す 「梅見」印多数あり 墨筆・朱筆・赤ペン・赤鉛筆による書き入れ多し 帙なし 一 表紙外題「第拾六回〔明治卅七年十月十七日〕泊園同窓會列席申込者名簿 泊園書院同窓會」二 表紙外題「明治卅七年十月初吉 第拾六回泊園同窓會常費寄贈者名簿 泊園同窓會用」三 表紙外題「明治卅六年五月中旬 第拾五回泊園同窓會列席簿 泊園同窓會幹事」 左下に「泊園同窓會幹事印」印四 表紙外題「明治卅六年五月初吉」

第十七回同窓會出席簿

一冊

LH2*丙*120*17

【葉數】 十二葉（墨付五葉）
 【外題】 内題「明治乙巳第十七回泊園同窓會出席氏名簿」
 【内題】 書き付け外題「泊園同窓會用 明治乙巳同窓會出席者簿」
 【備考】 大和綴じ 青刷野紙を用う 上から「會費」「常費」「氏名」に分けて記す 第六葉は「泊園文庫基金債券利子及追納収入表」、第七葉は「同 支部」「梅見」印多数あり 墨筆による書き入れ多し 帙なし

第拾八回泊園同窓會出席簿

一冊

LH2*丙*120*18

【葉數】 十葉（墨付六葉）
 【外題】 内題「第十八回泊園同窓會出席申込名」
 【内題】 書き付け外題「第拾八回泊園同窓會出席簿」

【備考】 大和綴じ 青刷野紙を用う 上から「會費」「氏名」に分けて記す 「梅見」印多数あり 墨筆・朱筆による書き入れ多し 帙なし

第拾九回泊園同窓會出席簿

一冊

LH2*丙*120*19

【葉數】 九葉
 【外題】 内題「第拾九回泊園同窓會出席者」
 【内題】 書き付け外題「第拾九回泊園同窓會出席簿」
 【備考】 大和綴じ 青刷野紙を用う 墨筆による書き入れあり 帙なし

第拾八回泊園同窓會通知簿

一冊 藤澤南岳筆

LH2*丙*105*18

【葉數】 十八葉
 【外題】 内題「第拾八回泊園同窓會通告人名簿 地方」
 【内題】 書き付け外題「第拾号 地方之部 第拾八回泊園同窓會通知簿」
 【備考】 大和綴じ 明治二十九年十月十七日開催の第十八回泊園同窓會名簿（地方） 青刷野紙を用い、上から「會費」「常費」「国名市郡町村」「氏名」に分けて記入 墨筆・朱筆による書き入れ多し 朱筆・墨筆による欄外書き入れあり 帙なし

第貳拾貳回泊園同窓會出席員名簿

一冊

LH2*丙*120*22

【葉數】 十一葉（墨付三葉）
 【外題】 内題なし
 【内題】 書き付け外題「明治四十參年十月仲七於天王寺畔 八百松樓上開催 第貳拾貳回泊園同窓會出席員名簿」

【備考】 大和綴じ 青刷野紙を用う 上から「會費」「住所」「氏名」に分けて記す 墨筆による書き入れあり 帙なし

第拾九回泊園同窓會員名簿 一冊 藤澤南岳筆

LH2*内*121*

【葉数】 二十六葉（墨付二十四葉）

【外題】 内題「泊園同窓會員名簿」 丁未ノ部

【内題】 書き付け外題「丁未 菊秋 第拾九回泊園同窓會

員名簿 泊園同窓會」

【備考】 大和綴じ 青刷野紙を用う 氏名のいろは順に記す 表紙左下に「大阪市東區東平野町五丁目壹八九 泊園書院」印 朱筆・墨筆による書き入れ多し 帙なし

登門録 一冊

LH2*内*122*

【項数】 四十四頁

【外題】 内題なし

【内題】 外題「登門録」

【備考】 洋装活版 『第拾五六回泊園同窓會誌』(LH二ノ

丙九六 一五ノ一六)に附載の「登門録」を単行出版し

たもの 明治六年から明治三十七年に至るまでの千六百

五十六名の泊園書院門人名簿 この「登門録」は吾妻重

一編著『泊園書院歴史資料集』(泊園書院資料集成一、東

西学術研究所資料集刊二十九 一、二〇一〇年)に影印

を載せる

登門録 一冊 藤澤黄坡筆

LH2*内*123*

【葉数】 八葉

【外題】 内題なし

【内題】 外題「登門録」

【備考】 大和綴じ 青刷野紙を用う 裏表紙に「泊園書院

分院」と墨書す 黄坡が主宰した泊園書院分院(大阪市

南区竹屋町九番地)の門人名簿 明治四十四年(一九一

一)六月から大正四年(一九一五)二月まで 墨筆によ

る書き入れ多し 帙なし 卷末に挟み物あり「私立泊

園書院分院」と印刷された出席表八枚、「公私立 諸學校

大阪市南區役所」の届出用紙一枚、「藤澤黄坡先生」宛

封筒一枚、「井崎貞一郎」「近藤侃太郎」の名刺それぞれ

一枚、「細見高等写真館」の受取証一枚、「辻政太郎」紙

片一枚

泊園同窓會名簿 一冊 藤澤黄鵠筆力

LH2*内*124*

【葉数】 四十七葉（墨付二十三葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「泊園同窓會名簿」

【備考】 四つ目綴じ 青刷野紙を用う 第二十五葉以降、

第一回から第六回まで同窓会の支出を記録する 朱筆・

墨筆による書き入れあり 帙なし

餘計簿 一冊 藤澤南岳筆

LH2*内*125*

【葉数】 九十九葉（墨付九十六葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「餘計簿」

【備考】 洋装 藍刷野紙を用う 南岳の揮毫・筆耕の詳細

な記録 大正二年(一九一三)五月十五日から大正六年

(一九一七)十二月まで 扉に「季布一語 計慶音通」と

墨書す 朱筆・墨筆による書き入れあり 帙なし

貌執録 一冊 藤澤南岳筆

LH2*内*126*

【葉数】 百一葉（墨付七十六葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「貌執録」

【備考】 洋装 朱刷野紙を用う 南岳の知人の名簿 裏表

紙の中央下に「泊園主人」と墨書す 墨筆・朱筆による

書き入れあり 帙なし

季語録 一冊 藤澤南岳・藤澤黄鵠筆力

LH2*内*127*

【葉数】 三十四葉（墨付十二葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「季語録」

【備考】 大和綴じ 藍刷野紙を用う 扁額の揮毫の記録

書院の書籍・収蔵品目録など 朱筆・墨筆による書き入

れあり 帙なし

泊園書院入学願書 一枚 清水久兵衛筆

LH2*内*128*

【外題】 内題「入学願書」

【内題】 書き付け外題「泊園書院入学願書」

【備考】 二十四・二×二十九・五センチ 大正四年（一九

一五）九月三日、清水久兵衛の子、清水明の泊園書院入

学願書 左下に「清水」印

泊園日誌 一冊一帙 梅見春吉ら筆

LH2*内*129*

【葉数】 百九十八葉（墨付百八十五葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「大正六年 泊園日録」

【備考】 洋装 裏表紙に「幹吏室 記事」と墨書す 大正

六年一月一日から大正十三年二月十二までの泊園書院の

日誌 題箋「泊園日誌 大正六年」の帙に収む

文稿 「富永仲基関係資料」 一冊 井狩雪溪著 自

筆力

LH2*内*84-1*

【葉数】 六葉

【外題】 内題なし

【内題】 外題なし 巻頭附箋に「文稿」とあり

【備考】 大和綴じ 「富永氏 呈謙齋栞右 井總拜」と表

書きあり 「九臯集序文中」などの見出しあり 欄外書

き入れ、朱点多し 真市右衛門旧蔵 題箋「仲基東華著」

の帙に収む 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲

基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／

東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

東崖先生文抄 「富永仲基関係資料」 一冊 伊藤東

涯著 富永東華筆

LH2*内*84-2*

【葉数】 三十八葉

【外題】 内題「紹述集抄」

【内題】 書き付け外題「東崖先生文抄」

【備考】 大和綴じ 表紙右に「東華先生之書 眞市右衛

門」、扉に「安永五年丙申八月東華老人書于聚樂坊僑居」

と書き付け 扉裏に「東崖ノ文日本ノ事ユヘ引キ合セノ

為メ入用ノ熈正又キガキスル也文章モ上手也」とあり

内容は「序類」、「尺牘」、「墓碑」、「題跋」、「策問類」、「傳」、

「志類」、「考議疏上梁文頌歌讀類」に分かつ 訓点つき

真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東華著」の帙に収む 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

文則 「富永仲基関係資料」 一冊 富永東華著 抄写者未詳

LH2*内*84.3*

【葉数】 十三葉

【外題】 内題「文則」

【内題】 書き付け外題「九臯先生文則 卷一」

【備考】 大和綴じ 表紙右に「東華先生著 眞氏」と書き付け 巻首に「文則巻第一 浪華 九臯先生富永重

著」、巻末に「九臯先生文則巻第一終」とあり 王宗沐

「龍溪王先生集舊序」、王守仁「贈王堯卿序」、韓愈の「送

陳彤秀才序」、「送名堅序」、「畫記」など数篇を集録 訓点

欄外書き入れ多し 真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東華著」

の帙に収む 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲

基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／

東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

蝮文 「富永仲基関係資料」 一冊 富永仲基筆

LH2*内*84.4*

【葉数】 十二葉（墨付十一葉）

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「蝮文」

【備考】 大和綴じ 表紙右下に「富永氏 幾三郎」と書き

付け 漢詩文の抜き書き 柳宗元「宥蝮蛇文」、歐陽脩

「雜記」、羅隱「説天鷄」、曹植「蜻蛉賦」、陸龜蒙「蠹化」、

蘇軾「洞庭春色賦」、「中山松繆賦」、「禹碑」、黃庭堅「張仲吉綠陰堂記」、楊雄「酒箴」、皇甫嵩「醉鄉日月」、蘇軾「書東臯子傳後」、劉備「昭烈封張飛西鄉侯策」、「拜馬超鄉侯策」、劉禪「賜陳祗謚詔」、「馬良與諸葛亮書」、「秦璋答王商書」、「桓温上表」、卻正「釋讖」を抄写す 句点あり 真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東華著」の帙に収む 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考

東華秘笈 「富永仲基関係資料」 一冊 富永東華著

富永東華筆

LH2*内*84.5*

【葉数】 七十一葉

【外題】 内題なし

【内題】 書き付け外題「東華秘笈」

【備考】 大和綴じ 表紙右下に「東華先生之書 眞市

右衛門」と書き付け 和文 藥草、食物、治療、打碑法、

棺槨など諸事物に関する考証的覚書 反故紙を使う 訓

点多し 真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東華著」の帙に収む

「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九

臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」

と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

東華集 「富永仲基関係資料」 一冊 一帙 富永東華

著 富永東華筆

LH2*内*84.6*

【葉数】 十九葉

【外題】 内題「東華集」

【内題】 書き付け外題「東華草稿 卷一」

【備考】 大和綴じ 表紙右下に「眞氏」と書き付け 巻首に「東華集巻一 浪華 富重著」とあり 朱点 朱筆による訓点 朱筆・墨筆による書き入れ多し 真市右衛門旧蔵 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

「題梅畫」七言絶句 「富永仲基関係資料」 一枚
伊藤東涯書

LH2*丙*84-7*

【備考】 右上に「東涯書記」印 厚紙で裏打ちす 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生 右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料〔題畧〕
「題梅畫 東涯」

手習い帳 「富永仲基関係資料」 一帖 富永仲基筆

LH2*丙*84-8*

【葉数】 二十五葉
【外題】 内題・外題ともになし
【備考】 帖装 和文の手紙、和歌、『易』六十四卦名など
表紙に「享保十年 幾三郎 手本 富永」と書き付け
「享保十年八（昭和十三年迄）一百十四年前」と墨書された紙片を表紙に貼り付け 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る
「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

手習い帳 「富永仲基関係資料」 一帖 道明寺屋次郎吉筆

LH2*丙*84-9*

【葉数】 十二葉
【外題】 内題・外題ともになし
【備考】 帖装 和文の手紙 巻末に「道明寺屋次郎吉 元文四年己未 中秋望前」とあり 「元文四年八（昭和十三年迄）二百年前」と墨書された紙片を巻末に貼り付け 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

手習い帳 「富永仲基関係資料」 一帖 筆者未詳

LH2*丙*84-10*

【葉数】 十六葉
【外題】 内題・外題ともになし
【備考】 帖装 和文の手紙 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る
「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

芳春書 「富永仲基関係資料」 十枚 富永芳春筆

LH2*丙*84-11*

【備考】 和文 和歌など 真市右衛門旧蔵 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料〔枚数〕十枚のうち七枚は「眞氏 芳春君書」と表書きする袋に入る

口上 「富永仲基関係資料」 一枚 五井藤九郎筆

LH2*内*84-12*

【内題】 冒頭に「口上」とあり

【備考】 和文 文末に「十一月廿九日 五井藤九郎／川井立枝様」とあり 川井立枝宛ての手紙 和文 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

富永九華宛書簡 「富永仲基関係資料」 一枚 三宅直一郎筆

直一郎筆

LH2*内*84-13*

【外題】 内題・外題ともになし

【備考】 和文 末尾に「六月二日 富直次郎様 三宅直一郎」とあり 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

崔船宛書簡 山水画 「富永仲基関係資料」 各一枚

富永芳春筆 富永九華画

LH2*内*84-14*

【外題】 内題・外題ともになし

【備考】 書簡は和文で十九・七×三十・八センチ 画は十三・七×十八・四センチ 「眞氏 芳春君之書／九華君之画」と表書きする袋あり 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九

臯集／謙齋先生瑕右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

富永氏墓碑銘 「富永仲基関係資料」 一冊 真市右衛門筆

衛門筆

LH2*内*84-15*

【葉数】 三葉

【外題】 内題なし

【内題】 外題「富永氏 墓碑銘」

【備考】 大和綴じ 見返しに「富永家と眞家との関係に就ては富永芳春君の長子毅齋へ眞氏より利勢女が入嫁し芳春君の第五子東華君は眞氏の幾女のもとね入家したといふ深い関係にある。然るに富永家は後継なく今を去る約二百年前遂に絶家するの悲運に陥られ眞家祖先は之を悲みて其墓を守護され又眞家畧代の主は其遺業を継がれ今日に至るまで守護されて来たのである。そこで私は今世の時代を考へては將來墓地の移轉且又縮少等の事情が起るかも知れぬのでここに記録し後世に傳へ眞家の續く限り其主たる者は富永家の墓碑を守護せねばならぬ。これは眞家祖先の殘

泊園（新聞）

LH2*内*85*

【備考】 石濱純太郎・藤澤黄坡によって編集、刊行された新聞 三十二×二十三・五センチ 各号おおむね四頁 紙箱に入る 泊園誌社発行分に別紙の附録あり：第四号「城山道人稿三 四」、第五号「城山道人稿五 七」、第十号「甘谷先生百七十年祭記念」、第十一号「城山道人稿十

八」、第十二号「城山道人稿十九」、「藤澤黄坡先生華甲祝賀會」、第十三号「城山道人稿二十 二十二」、第十四号「城山道人稿二十三 二十四」、第十六號「城山道人稿二十七 二十八」、第十七号「城山道人稿二十九 三十」、第二十八号「泊園會報」

挟み物：